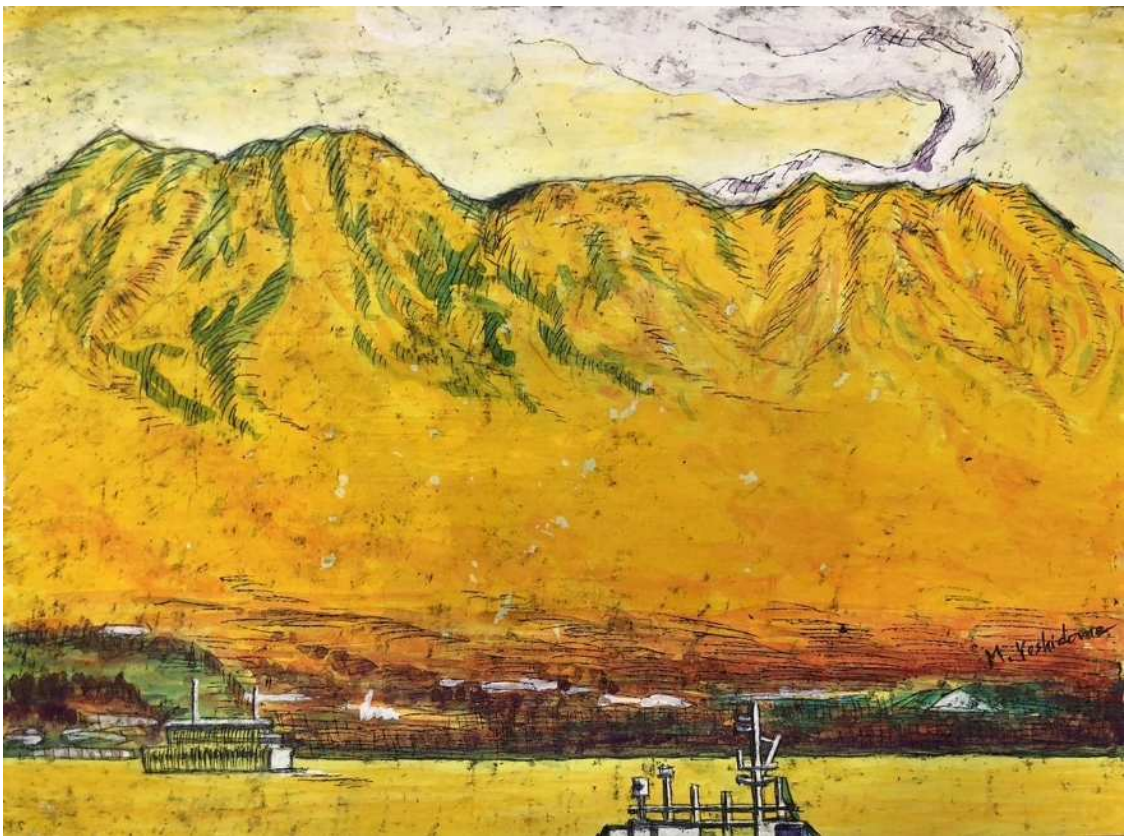


令和4年度

全国学力・学習状況調査
鹿児島県結果分析



令和5年2月
鹿児島県教育委員会

はじめに

令和4年4月19日、全国学力・学習状況調査が全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に行われ、その調査結果が7月末に公表されました。本県においては、小学校では、国語、算数はほぼ全国平均と同等となり、理科は全国平均を上回りました。また、中学校では、国語、理科は、悉皆調査が再開した平成25年以降、初めて全国平均と同等となりました。このような結果から、県教育委員会としては、全体としてみれば、着実に学力が定着してきているものと考えております。

県教育委員会として、この「全体としてみれば」、「学力」という言葉を強調しているのには理由があります。今年度の本報告書の「総括」で言及しているとおり、今回、本県の調査結果が全国平均と同等又はそれ以上となった要因を詳細に分析した結果、「知識及び技能」における成果の影響が大きいことが分かりました。逆に、「思考力、判断力、表現力等」については十分な成果が見えず、また、自己肯定感や挑戦心といった「学びに向かう力、人間性等」に係る調査結果については、全国平均を相当程度下回る結果となりました。

そもそも「学力」とは何だったでしょうか。「知識及び技能」に係る調査結果の正答率のみが高い水準にあり、その結果として、全体として見れば全国平均と同等又はそれ以上の正答率となったことについて、我々はどのように評価すれば良いのでしょうか。果たして、「学力が上がった!」と諸手を挙げて喜んで良いのでしょうか。こうした県教育委員会としての「モヤモヤ」を表現すべく、「全体として」、「学力」といった言葉をあえて強調しました。

今回の報告書では、本県教育関係者のみなさまとこの「モヤモヤ」を共有することを足がかりに、「学ぶ意味」や「学校教育の意義」、「学力の本質」といったものを、今一度「そもそも論」から問い直し、未来を生きる児童生徒のために、何を為すべきかについて、一緒に考えていきたいと思えます。同時に、時代の変革期にあり、また、GIGAスクール構想により一人一台端末が導入されるなど学びの在り方も大きな転換期にある中において、この報告書が、いわゆる「学力観」や「子供観」など、教師一人一人がもつ「観」を見つめ直す一助となれば幸いです。

また、こうした「そもそも論」を問い直し、「観」を見つめ直した結果として、今回、県教育委員会から提案したい学びの在り方が「学習者主体の学び」です。「思考力、判断力、表現力等」や「学びに向かう力、人間性等」を含む真の意味での「学力」向上を図るには、教師主導の一律一斉一方向型の指導だけでは十分ではありません。子供たちは、元来、有能な学び手であるとの認識の下、授業の主導権を子供たちに返し、その自発性を大切にしたい学びが求められます。学習指導要領が求める「主体的・対話的で深い学び」の根底には「学習者主体」であることが当然に求められ、本県においては、その足元からしっかりと固め直す必要があります。

県教育委員会としても、子供たちの「確かな学力」の定着に向け、全力で取り組んでまいりますので、各市町村教育委員会及び各学校におかれましても、本報告書を活用しながら、引き続き、児童生徒の確かな学力の定着が図られるよう取組をお願いします。

目次

○ 県全体の調査結果〔公立〕

1 教科に関する調査の結果概要	1
(1) 小学校6年 平均正答率	
(2) 中学校3年 平均正答率	
2 総括及び考察	
・ 総括 全ての子供たちの可能性を引き出す「学習者主体の学び」へ ～教師に求められる「観」の転換～	2～7
・ 考察① 「学びに向かう力,人間性等」は育まれているか?	8～11
・ 考察② 学習者主体の授業への転換は図られているか?	12～15
3 取組紹介 成果の見られた学校や教育委員会は何をしたのか?	16～23
4 教科別,観点別及び領域別の結果概要	
(1) 教科別正答数分布から	24～25
(2) 観点別の平均正答率から	26～27
(3) 領域別の平均正答率から	28～29
5 指導法改善のポイント	
・ 国語【小学校第6学年】	30～31
・ 国語【中学校第3学年】	32～33
・ 算数【小学校第6学年】	34～35
・ 数学【中学校第3学年】	36～37
・ 理科【小学校第6学年】	38～39
・ 理科【中学校第3学年】	40～41
(参考) 令和4年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙 結果概要	42～54
(1) 児童生徒質問紙【小学校】の結果概要	
(2) 児童生徒質問紙【中学校】の結果概要	
(3) 学校質問紙【小学校】の結果概要	
(4) 学校質問紙【中学校】の結果概要	
(5) 学校質問紙【小学校】新型コロナウイルスの影響	
(6) 学校質問紙【中学校】新型コロナウイルスの影響	

○ 市町村別の調査結果

別冊

I 教科に関する調査の結果概要

令和4年度全国学力・学習状況調査 平均正答率

(1) 小学校6年 平均正答率

小学校では、国語、算数はほぼ全国平均と同等となり、理科は全国平均を上回りました。3教科全体で見ると、前回調査に引き続き、全国平均を上回っています。

	令和4年度			令和3年度			令和元年度
	県平均 正答率(※1)	全国平均 正答率(※2)	参考値 (※3)	県平均 正答率	全国平均 正答率	参考値	参考値
国語	(※4)9.3/14問 66%	9.2/14問 65.6%	0	9.4/14問 67%	9.1/14問 64.7%	2	2
算数	10.1/16問 63%	10.1/16問 63.2%	0	11.4/16問 71%	11.2/16問 70.2%	1	-2
理科	11.4/17問 67%	10.8/17問 63.3%	4	9.5/16問 59% (H30年度)	9.6/16問 60.3% (H30年度)	-1 (H30年度)	2 (H27年度)
合計			4			2	2

(2) 中学校3年 平均正答率

中学校では、3教科全体で見ると、前回調査に引き続き、全国平均を下回ったものの、国語、理科については、悉皆調査が再開した平成25年度以降※、初めて全国平均と同等となりました。

【補足】平成19年度から平成21年度まで悉皆調査。平成22年度、平成24年度は抽出調査。

平成25年度以降は悉皆調査。(令和2年度はコロナの影響で中止。)

	令和4年度			令和3年度			令和元年度
	県平均 正答率	全国平均 正答率	参考値	県平均 正答率	全国平均 正答率	参考値	参考値
国語	9.7/14問 69%	9.7/14問 69.0%	0	9.0/14問 64%	9.0/14問 64.6%	-1	-3
数学	6.6/14問 47%	7.2/14問 51.4%	-4	9.0/16問 56%	9.1/16問 57.2%	-1	-3
理科	10.2/21問 49%	10.4/21問 49.3%	0	17.5/27問 65% (H30年度)	17.9/27問 66.1% (H30年度)	-1 (H30年度)	-1 (H27年度)
合計			-4			-3	-7

※1 県平均正答率は、小数第一位を四捨五入した値(整数値)である。

※2 全国平均正答率は、小数第二位を四捨五入した値である。

※3 参考値とは、県平均正答率から、全国平均正答率を四捨五入した数値を引いた差である。

※4 平均正答率は、小数第二位を四捨五入した値であるため、その値をもとに平均正答率を求めた場合、表中の平均正答率の値と異なる場合がある。

2 総括及び考察

総括

全ての子供たちの可能性を引き出す「学習者主体の学び」へ ～教師に求められる「観」の転換～

「はじめに」で記載したとおり、本県の調査結果について、小学校では、国語、算数はほぼ全国平均と同等となり、理科は全国平均を上回りました。また、中学校では、国語、理科は、悉皆調査が再開した平成25年以降、初めて全国平均と同等となりました。このような結果から県教育委員会としては、各学校及び各市町村教育委員会の取組の成果により、全体としてみれば、着実に学力が定着してきているものと考えております。

一方で、学力調査を観点別に見てみると、「知識・技能」に係る調査結果では全国平均と同等又は上回る結果となったのは6教科中5教科であるのに対し、「思考・判断・表現」に係る調査結果については、6教科中2教科にとどまりました〔表1〕。また、児童生徒質問紙を見ると、自己肯定感や自ら学びを調整する力といった「学びに向かう力、人間性等」に係る調査結果については全国平均を下回る結果も多く見られました〔表2〕。

では、なぜ、こうした状況になっているのでしょうか。学校質問紙や児童生徒質問紙を基に分析したところ、県教育委員会としては、本県における指導（学び）の在り方に課題があるのではないかと考えました。以下、これらについて詳細に見ていくこととします。

1 学力の状況

(1) 「知識・技能」及び「思考・判断・表現」について（「目に見える学力」について）

「知識・技能」に係る調査結果の正答率がよく、「思考・判断・表現」に係る調査結果に課題があることについては上述のとおりですが、その傾向が顕著な教科としては、例えば、小学校の国語と理科があります。それぞれ、「知識・技能」に係る調査結果で2.5ポイント、8.9ポイント全国平均を上回っているものの、「思考・判断・表現」に係る調査結果では、国語は0.8ポイント下回り、理科はわずか0.8ポイント上回っているのみにとどまります。すなわち、全国平均と同等又はそれ以上の結果となった教科（科目）についても、「知識・技能」に係る調査結果における貢献が大きく、「思考・判断・表現」に係る調査結果については、未だに十分な成果が見られない結果となっています〔表1〕。

〔表1〕 本県における学力調査観点別結果

本県		小学校			中学校		
教科	観点	県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
国語	知識・技能	73.0	70.5	2.5	70.3	69.0	1.3
	思考・判断・表現	61.2	62.0	-0.8	62.6	62.3	0.3
算数 数学	知識・技能	68.2	68.2	0.0	55.0	59.9	-4.9
	思考・判断・表現	55.9	56.7	-0.8	33.3	36.2	-2.9
理科	知識・技能	71.4	62.5	8.9	46.2	46.1	0.1
	思考・判断・表現	64.5	63.7	0.8	50.1	51.0	-0.9

※ 県平均、全国平均の数値は正答率（％）

(2) 「学びに向かう力、人間性等」について(「目に見えない学力」について)

次に、学力の土台である「学びに向かう力、人間性等」に関する項目について、質問紙を基に分析をしてみました〔表2〕。その結果、「自分にはよいところがあるか。」といった自己肯定感に関する項目は、全国に比べて小学校で7.0ポイント、中学校で6.9ポイントと大きく下回っており、また、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか。」「自分で計画を立てて勉強しているか。」といった項目では、小・中学校ともに全国を下回る結果となっています。このことから、自己肯定感や挑戦心など自ら学ぶ力に関する項目、つまり「学びに向かう力、人間性等」に係る調査結果についても、課題が見られることが分かります。詳細については、考察①で改めて分析していきます。

○ 「学びに向かう力、人間性等」に関する質問

〔表2〕 児童生徒質問紙から (全国との比較)

質問項目	小学校			中学校		
	県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
自分によいところがあるか。【自己肯定感】	32.4	39.4	-7.0	29.1	36.0	-6.9
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか。【自己肯定感】	38.8	46.3	-7.5	32.1	39.9	-7.8
自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしているか。【粘り強さ】	38.5	38.8	-0.3	37.4	36.8	0.6
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦しているか。【挑戦心】	25.7	27.6	-1.9	19.2	21.4	-2.2
自分で計画を立てて勉強しているか。【学びに向かう力】	24.1	27.5	-3.4	14.4	15.4	-1.0
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげているか。【メタ認知】	33.3	33.2	0.1	24.2	25.6	-1.4

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合(%)

2 学力の状況に係る評価

このように、本県においては、学力の三要素である、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」のうち、「知識及び技能」については、全国と同等もしくは上回っているものの、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」については全国を下回る結果となっています。

それでは、こうした本県の「学力」の現状について、どのように評価をしたら良いでしょうか。まずは、たとえ「知識及び技能」に関する調査結果の正答率の向上が中心であったとしても、それは、学校関係者の方々の学力向上に係る強い意識の表れであると捉えており、こうした意識については、引き続き強く持ち続ける必要があると考えております。

一方、学力の三要素のうちの二要素が全国平均を下回る結果にある中において、我々、教育関係者は、胸を張って、「本県の学力は向上している」と言えるのでしょうか。児童生徒が、社会の変化に主体的に関わり、自らの可能性を發揮し、より良い社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにするためには、「学びに向かう力、人間性等」を土台として、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」を含めた学力の三要素をバランスよく育むことが重要であり、「学力向上の質」を今まで以上に追求していくことが求められます。そこで、今一度、学力とは何かについて考えてみたいと思います。

3 そもそも学力とは何か？

学力については、例えば、学校教育法第30条において、「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」とされており、学習指導要領においては、「児童生徒の発達の段階や特性等を踏まえ、『知識及び技能』の習得と、『思考力、判断力、表現力等』の育成、『学びに向かう力、人間性等』の涵養という、資質・能力の3つの柱の育成がバランスよく実現できるようにすること」が示されています。

また、図1は資質・能力の3つの柱を氷山のイメージで表したモデルです。このモデルからも分かるように、とすれば、見える学力（知識及び技能）のみが学力だと捉えられがちですが、学力とは、見えにくい学力（思考力、判断力、表現力等）や見えない学力（学びに向かう力、人間性等）も含んだ概念であり、未来社会で生き抜く力を育むためには、この3つの学力を併せて「学力」と捉え、これらを一体的に育成していくことが大切です。

特に、非認知能力等を含む「学びに向かう力、人間性等」を身に付けさせるためには、教師主体の一律一斉一方向型の指導だけでは十分でなく、学びの在り方の本質を問い直すことが求められます。その際、総合的な学習の時間における「探究」の考え方を、各教科にも活かしていくことも重要な視点です。

併せて、授業だけでなく、学校行事や特別活動、部活動などの「学校ならではの」をフル活用し、社会で求められる真の「学力」を育むことが大事なのではないでしょうか。

また、文部科学省の資料では、「今の子供たちが活躍する2030年の社会は、さらに変化の加速度が増し、複雑で予測困難なものとなります。そうした変化は、どのような職業や人生を選択するかに関わらず、全ての子供たちの生き方に影響をするものと予想されます。社会の変化に対して受け身の観点に立てば、子供たちは、自分の人生を切り拓いていくことが難しくなります。」と述べられています。

そのような時代を生きていく子供たちだからこそ、「知識及び技能」だけでなく、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」など、学力の三要素をバランスよく身に付けることが重要であり、教師は学校教育にしか成し得ない、真の意味での「学力」を子供たちに身に付けさせるために、何を為すべきかを、今一度、問い直す必要があります。

県教育委員会としては、今年度、様々な施策を展開するにあたり、学力とは何かという本質論にこだわり、県指導主事等会議や県教育事務所指導課長等会議、学力向上フォーラム等において、本県教育関係者の皆様と、幾度となく議論を行ってきました。そもそも学力とは何か、そのために私たちは何を為すべきか、私たちの学力向上策はこれでいいのかを、皆さんと一緒に問い続けてきました。本質を見つめ直す過程では、新たな発見や気づきがたくさん生まれます。「そもそも『振り返り』って何ですんだっけ?」「そもそも『めあて』ってなんで書くんだっけ?」などといった会話から、「であれば、今の時代、もっとこんな方法があるんじゃない?」「他にもこんなこともできるよね?」など、とすれば授業のルーティンとして流されがちな一つ

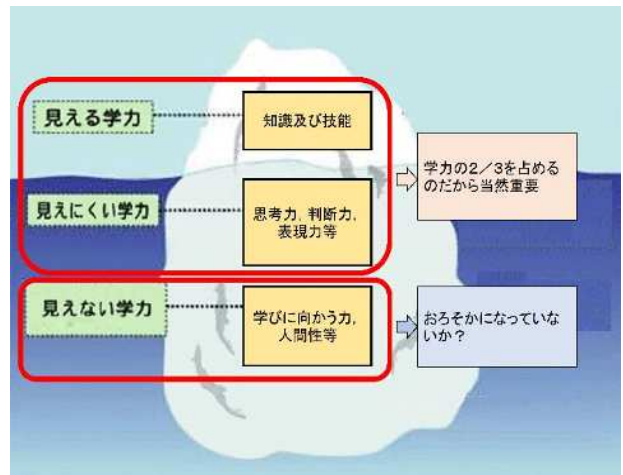


図1 氷山モデルで見たときの学力の捉え（イメージ）

（梶田叡一（1994）の学力の氷山モデルを基に作成）

一つの意味を見つめ直し、より良い手段へと昇華される過程が所々で見られたのはとても刺激的でした。

また、「学力とは何だったか?」「テストで良い点数をとれることが学力なのか?」「そこだけが目的化してしまっただけでは、点数によるテストのない社会に出てから子供たちが困るのではないか?」「子供が未来社会で真に必要な力を育むのが学校教育の意義ではないか?」「それでは、未来社会で必要な力とはどのようなものか?」「そのためには、どのような学び(授業)が求められるのか?」。子供のことを思う教育関係者の皆様が一堂に会せば、当然のように、至る所でこうした議論が始まりました。

ともすれば、学校現場においては、日々の業務に忙殺され、こうした「そもそも論」を語る暇さえないと聞きます。しかし、お互いの教育観や教師観、授業観、子供観などを交流させることで、一人一人の考え方(観)の転換やアップデートが図られます。そしてそのことは、子供たちの学びへと直結するものです。ぜひ、学力についても校内研修を始め様々な場面において議論していただき、本質から、学力向上の在り方について見つめ直していただくようお願いします。

4 学力の三要素のバランスが崩れている要因

ではなぜ、本県において、学力の三要素のバランスが崩れてしまっているのでしょうか。また、こうした真の意味での「学力」を身に付けさせるためには、どのような学びが必要なのでしょうか。

授業に関連する質問紙を見ると、教師が回答する学校質問紙 [表3] では、小・中学校ともに、「指導方法の改善や工夫を行った」という項目が全国を上回っています。また、小学校では「主体的な学び」、「協働的な学び」に関する項目が全国を上回っています。一方で、児童生徒が回答する児童生徒質問紙 [表4] について、同じ質問項目を見てみると、ほとんどの項目で全国を下回っています。このことから、授業改善に関して教師は意識が高まっている、もしくは、取り組んでいると思っているものの、児童生徒はそうした実感を持ち合わせていないことが分かります。

○ 授業に関する質問(学校質問紙と児童生徒質問紙との比較)

[表3] 学校質問紙から

質問項目	小学校			中学校		
	県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
解決に向けて、自分で考え、自分からできていると思うか。【主体的な学び】	26.4	19.3	7.1	17.7	19.2	-1.5
話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか。【協働的な学び】	18.4	15.1	3.3	14.4	20.3	-5.9
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったか。【指導方法改善】	34.6	21.2	13.4	23.9	20.7	3.2

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合(%)

[表4] 児童生徒質問紙から

質問項目	小学校			中学校		
	県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか。【主体的な学び】	27.8	30.5	-2.7	27.4	31.2	-3.8
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたか。【協働的な学び】	35.8	37.7	-1.9	32.0	34.1	-2.1
自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか。【個別最適な学び】	38.0	36.7	1.3	18.8	22.8	-4.0

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合(%)

なぜ、教師と児童生徒にこのような差が生じているのでしょうか。それは、教師が「したつもり」になっているからであり、換言すれば、教師主体の「何をしたか」、「どう教えたか」ベースの視点での指導が行われているからではないでしょうか。

学習指導要領では、「何を教えたか」という教師の視点でなく、「何ができるようになったか」という、子供の視点での学びの重要性が示されており、子供たちが学んだ事実や感じた事実を大切にすべきことは言うまでもありません。

「子供たちが本当に課題意識をもって取り組んでいるのだろうか。」「話し合いを通じて、自分の考えを深めたり、広げたりしているのだろうか。」佐藤(2022)は、静かに教師が書いた板書を綺麗にノートに書き写すだけのような児童生徒の姿を、学んだふりをして学びから逃走していると指摘し、これを「学びの偽装」として警鐘を鳴らしています。そして、「伝統的な一斉授業を行っている教室では、ほとんどの子供が学びの偽装を行っている。」とまで述べています。

こうした状況を打破するためには、まずは、子供主体・学習者主体へと発想を転換することが何より重要です。その上で、教師が「何を教えたか」、「どのように教えたか」ではなく、その結果として、「子供たちがどのような反応をしたか」、「どのように感じたか」、「どのようなことができるようになったのか」等、「子供たちの学びの姿」に基づき、授業改善につなげていくことが求められます。

このように、そこに子供の学びがあるのかということを常に意識することで、教師と児童生徒との意識の差が縮まるとともに、学習者主体の授業へと改善されていくのではないのでしょうか。

現在、県教育委員会が取り組んでいるコアスクールプロジェクトは、その考えを基に実践しています。また、本プロジェクトに限らずこうした取組を参考に、「子供が学んでいるか。学んでいるか。」の視点から授業を捉え、子供の視点から議論する習慣が大切です。



コラム 学校全体を学習者主体の授業へと変革させるために ～コアスクールプロジェクトの取組～

県教育委員会が取り組んでいるコアスクールプロジェクトは、子供の学びの姿に着目した校内研修を展開することで、授業改善や組織活性化へとつなげていく取組です。

1 子供の学びの姿(事実)からスタートする

校内研究授業では、子供たち一人一人の学びの姿を丁寧に見取ります。推測や評価を一切入れず、「首をかしげていた。」「すぐに鉛筆を持って書き出した。」等、子供の学びの姿(事実)のみを付箋に書き込みます。

2 子供の学びの姿(事実)の解釈について交流する

付箋に書かれた子供の学びの姿のもつ意味について、お互いの解釈を交流する中で、教師一人一人がもっている授業観や子供観など、お互いの観の揺らぎが始まります。新たな気付きや発見が生まれ、教師が子供の学びの姿を見取る力が高まるとともに、代案を示すことにより指導方法等についての考えが教科の枠や校種の違いを超えて深まっていきます。

3 目指す子供像に迫られていたかどうかを検証する

子供の学びの姿の背景を子供の立場で考え、目指す子供像に迫るヒントを探し出します。

4 共通実践事項を検討し、実践する

子供たちのために、何をすべきか。全員で取り組むべきことを話し合い、実践していきます。

5 学習者主体の学びとは何か

「子供は生まれながらに自らを成長・発達させる力（自己教育力）をもっている。」

これは幼児教育者であるモンテッソーリの言葉です。予測困難な時代においては、誰も正解を教えてくれません。こうした未来社会において、子供たちは自ら考え、自ら学んでいく必要があります。

一方で、今回の学力調査の結果を見ると、未だに知識・技能の定着に重きをおいた教師主体の授業が展開されていることが危惧されます。知識・技能の定着自体は当然に必要なことではありますが、予測困難な時代において知識・技能などは陳腐化するスピードも速いとの指摘もある中、身に付けた知識や技能を基に思考、判断、表現したり、自ら学んだりする力も今まで以上に重要性を増していきます。そうした観点から、学びの在り方を見つめ直す必要があります。

学校教育において、教師主体の授業によりあらゆることを教え込まれた子供たちは、いざ社会に出てから教えてくれる人がいなくなった際に立ちゆかなくなってしまう。こうした時代がすぐ近くの未来社会に待ち受けているからこそ、子供は本来有能な学び手であるという原点に立ち返り、「学習者主体」の授業を展開することが重要です。学校教育は大きな転換期に来ています。この時代に子供たちの学びに関わることができることに喜びを感じながら、学習者主体の授業へ歩みを進めていきましょう。詳細については、考察②で改めて分析していきます。

考察①

「学びに向かう力、人間性等」は育まれているか？

総括で述べたように、本県においては、学力の三要素の1つである「学びに向かう力、人間性等」について課題が見られる結果となりました。そこで、**考察①**では、これからの時代において一層重要性を増すとの指摘もある「学びに向かう力、人間性等」について、全国学力・学習状況調査で継続して高い正答率を維持しているA県との比較を交えながら考察していきます。

1 学びに向かう力、人間性等について

「学びに向かう力、人間性等」は、児童生徒が「どのように社会や世界と関わり、より良い人生を送るか」に関わる資質・能力であり、他の2つの柱をどのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素です。

具体的には、学習指導要領解説にも示されているように、主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する力、より良い生活や人間関係を自主的に形成する態度等があり、自分の思考や行動を客観的に把握し認識する、いわゆる「メタ認知」に関わる力を含むものです。

また、多様性を尊重する態度や互いの良さを生かして協働する力、持続可能な社会づくりに向けた態度、リーダーシップやチームワーク、感性、優しさや思いやりなどの人間性等に関するものも幅広く含まれており、一般的に非認知能力と認識されています。中室(2015)は、「テストの点数等で測ることが可能な認知能力は時間が経つとなくなるものもありますが、非認知能力は一度身に付けると一生持続する。」と述べています。

以下、代表的な項目について、A県との比較も交えつつ見ていきます。

2 自己肯定感

児童生徒は自分の良さや可能性を実感することで自信をもち、挑戦する気持ちが生まれます。この前向きな意欲が、学びに向かう力となり、新たな問題を解決し、自己実現につながっていきます。実際、本県の児童生徒質問紙と学力調査の結果をクロス集計したところ、「自分には、よいところがあると思いますか。」の項目に肯定的に回答する児童生徒ほど、全ての教科において正答率も高くなっており、学力との相関が見られます〔図2〕。

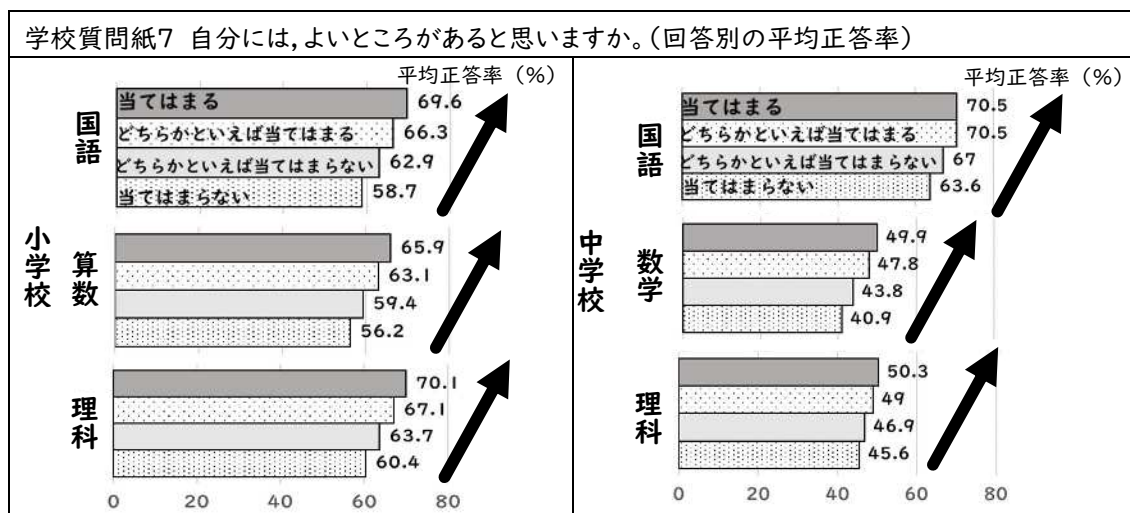


図2 自己肯定感と学力調査の正答率とのクロス集計

その上で、本県の児童生徒の自己肯定感に関する項目について、学校質問紙と児童生徒質問紙の回答を比較したところ、大きな差があることが分かりました。

学校質問紙で、教師は「学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか。」の項目に、当てはまると回答した割合は小学校で 4.5 ポイント全国を上回り、中学校でもほぼ全国と同等の割合となっています。

しかし、児童生徒は「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。」に当てはまると回答した割合は、小学校で 7.5 ポイント、中学校で 7.8 ポイント全国を下回る結果となっています。

一方で、A県を見てみると学校質問紙、児童生徒質問紙ともに、当てはまると回答した割合が、全国を大きく上回る結果となっています〔図3〕。

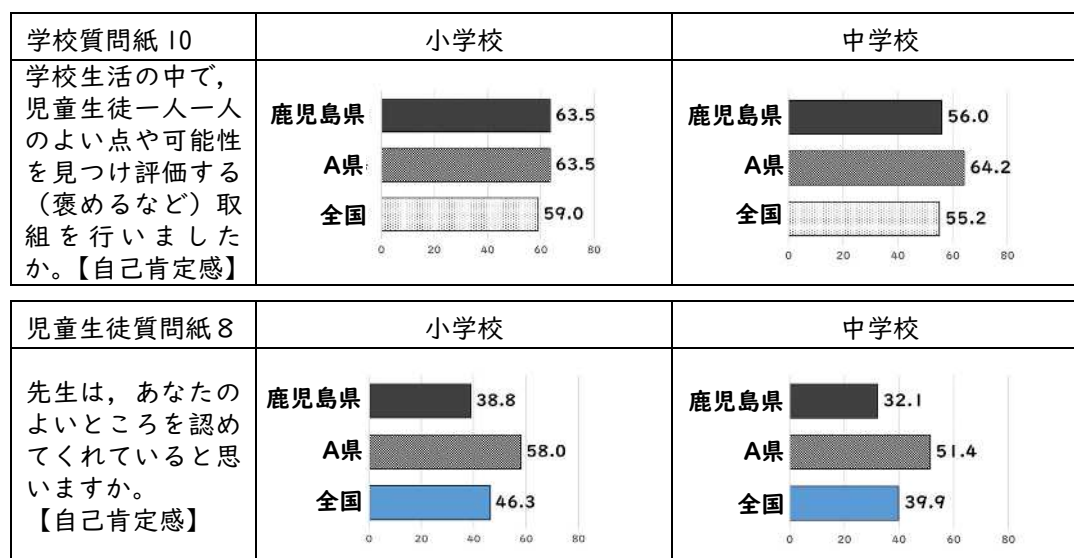


図3 自己肯定感に関するA県及び全国平均との比較

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合（%）

このように、本県において教師と児童生徒の意識のずれがあるのは何を表しているのでしょうか。子供たちが「先生がよいところを認めてくれている。」と実感するためには、どうしたらいいのでしょうか。その際のポイントとなるのは、教師がどのような子供観をもっているかということです。

奈須（2021）は、個別最適な学びを行う上で、子供は一人一人違っているし、違っていいという次のような子供観が大切になると述べています。

【多様性】

子どもは一人一人違っているし、違っていいというものです。学習に関わって子どもたちの間に認められる個人差、一人一人の子どもに特徴的な現れや要求は、全てその子ならではのかけがえのなさとして大切にされ、学習の成立や質の向上に資するように扱われるべきです。

子供が十人いれば十通りの良さがあり、一人一人が違うという子供観を根底にもつことで、画一的な枠組みを基準とした良さだけでなく、一人一人の個人差を認めた上での良さに改めて気付くことができるのではないのでしょうか。

また、中室（2015）は、「子供を褒める時には、具体的に子供が達成した内容を挙げることが重要です。」と述べています。そうすることによって、更なる努力を引き出し、難しいことに対して挑戦する子供が育つと考えられます。

さらに、奈須(2021)は、多様性とともな大切な子供観として、すべての子供は生まれながらにして有能な学び手であるという、次のような考え方も述べています。

【自立性】

すべての子どもは生まれながらにして有能な学び手であるというものです。子どもは学ぼうとしているし、学ぶ力をもっています。すべての子どもは、適切な環境と出会いさえすれば、自ら進んで環境に関わり、その相互作用の中で自ら学びを進め、深めていく存在だということです。

子供は元来学びたいと思っています。そうした考えの下、子供一人一人の個人差や特徴的な現れに応じた適切な環境との出会いを教師が意図的に作り出すことで、子供は自ら進んで環境に関わり、それぞれの可能性を発揮するのではないのでしょうか。そして、私たち教師がその過程をしっかりと見取り、認めることこそが、子供たちが褒められて嬉しいと感じる場面なのではないのでしょうか。そのような場面は、授業はもちろんのこと、学校行事や部活動等、学校には多く存在します。多様性や自立性といった子供観を今一度大切にして、学校教育活動全体の中で、自己肯定感を高めるにはどうしたらいいかを考えていきましょう。

3 自らの学びを調整する力

児童生徒の学びに向かう力を育む上で、主体的に学習に取り組む態度の一つの側面である自らの学習を調整する力が重要となります。

そこで、これらに関する質問紙について着目すると、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげているか。」の項目では、A県は小学校が44.6%、中学校が38.2%当てはまると回答しています。本県との差は小学校で11.3ポイント、中学校では14.0ポイントと大きな差になっています。

また、「家で自分で計画を立てて勉強しているか。」の項目では、A県は小学校で45.7%が当てはまると回答しています。本県との差は、21.6ポイントあります。中学校は27.7%で、差は13.3ポイントあります〔図4〕。

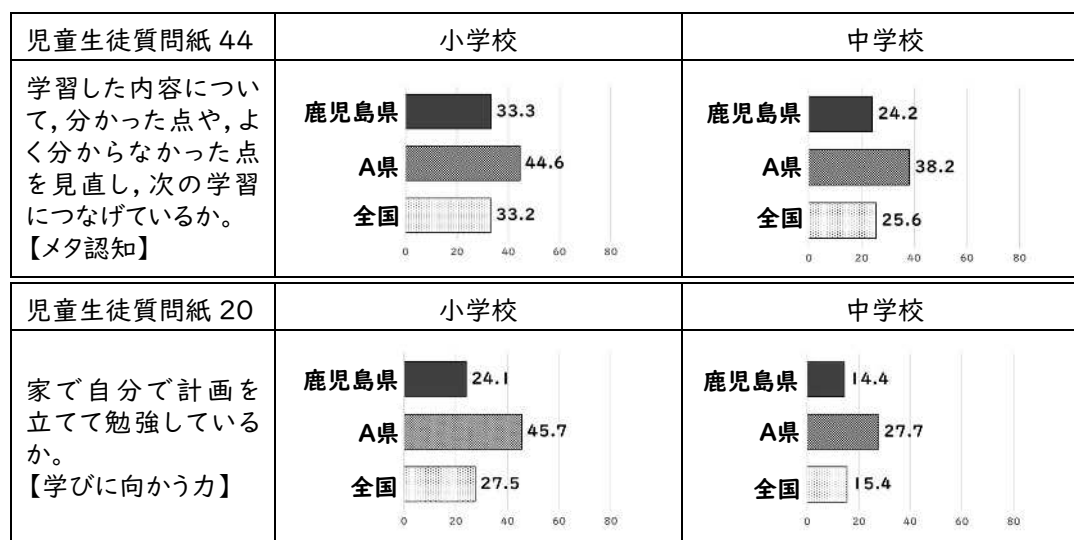


図4 自らの学びを調整する力に関するA県及び全国平均との比較

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合(%)

A県では、児童生徒が自らの学びを振り返ることで、次の学習へつなげたり、家庭でも自らの学習を計画を立てて勉強したりしています。つまり、A県は自らの学びを調整しながら、学習に取り組んでいる児童生徒が多いことが分かります。

本県においても、学習者主体の授業を行う中で、児童生徒が自らの学びを振り返る機会を設けることで自らの学習状況を評価したり、家庭での学習においても自らの学習課題を決定して取り組んだりするなどして、自らの学びを調整する力を育てていくことが求められます。



コラム 保護者や地域との連携による非認知能力の育成

「学びに向かう力・人間性等」を含む真の意味での学力の定着には、学校の取組が重要になってきますが、それだけでは不十分です。言うまでもなく、家庭や地域は、学校教育の土台となるものです。

学校、家庭、地域が有する教育機能はそれぞれに異なり、いずれか一つの教育機能のみで児童生徒の育成が図られるわけではありません。家庭や地域と連携・協力しながら児童生徒を育てていくことが重要です。

児童生徒質問紙の結果から、本県においては「将来の夢や目標を持っていますか。」、「読書は好きですか。」、「地域の行事に参加していますか。」などの保護者や地域との連携が不可欠な項目において、小・中学校共に全国平均を上回っています〔表5〕。

〔表5〕 児童生徒質問紙から見える本県の強み

質問項目	小学校			中学校		
	県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
将来の夢や目標を持っていますか。	65.3	60.4	4.9	43.0	39.8	3.2
読書は好きですか。	43.7	41.9	1.8	41.0	37.9	3.1
今住んでいる地域の行事に参加していますか。	30.1	23.4	6.7	16.9	14.3	2.6

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合（％）

これらは保護者や地域が協力的な鹿児島県の強みでもあると言えます。これらの強みをさらに生かしていくためにも、保護者や地域と同じマインドで子供を育てていくことが重要です。

保護者や地域の方々には、まだテストの点数等の目に見える学力を中心とした知識偏重の学力観をもっている方も多く見られます。真の学力とは何かということを学校からも発信し、共通の学力観をもちながら子供を育成していくことで、さらに鹿児島県の強みが生かされていくと思われます。

考察②

学習者主体の授業への転換は図られているか？

考察①でも述べたとおり、「学びに向かう力、人間性等」については、学校はもちろんのこと、家庭や地域と連携・協力しながら育てていくことが重要ですが、学校教育で最も児童生徒と接する時間の多い授業において、学力をバランスよく育成するためには、どのような授業改善を図る必要があるのでしょうか。

総括でも述べたとおり、学力調査の結果〔表1〕から、「知識・技能」と「思考・判断・表現」に係る調査結果には、大きな差があることが分かりました。この2つの観点について、継続して高い正答率を維持しているA県と比較することで、学習者主体の授業への転換をどのように行っていけば良いのか探っていきます。

1 学力をバランスよく育成するために

本県の「思考・判断・表現」に係る調査結果について、全国平均を上回ったのは、6教科中2教科でした。また、全国平均正答率との差を見ると、「知識・技能」における差よりも「思考・判断・表現」の差が上回っている教科の数は、ほぼありませんでした〔表1〕。

一方、A県では、「思考・判断・表現」に係る調査結果について、全ての教科で全国平均を上回っており、かつ、6教科中3教科において、「知識・技能」に係る調査結果における全国平均の差よりも「思考・判断・表現」に係る調査結果における差の方が上回っていました〔表6〕。このようにA県では、本県では課題となっている「思考・判断・表現」における正答率の高さも強みとなっています。

〔表6〕 A県の学力調査観点別結果

教科	観点	小学校			中学校		
		A県平均	全国平均	差	A県平均	全国平均	差
国語	知識・技能	77.1	70.5	6.6	72.3	69.0	3.3
	思考・判断・表現	66.1	62.0	4.1	66.7	62.3	4.4
算数 数学	知識・技能	70.5	68.2	2.3	62.9	59.9	3.0
	思考・判断・表現	61.3	56.7	4.6	39.0	36.2	2.8
理科	知識・技能	70.0	62.5	7.5	48.5	46.1	2.4
	思考・判断・表現	71.0	63.7	7.3	53.9	51.0	2.9

※ A県平均、全国平均の数値は正答率(%)

ではなぜ、A県では、「知識・技能」はもちろんのこと、「思考・判断・表現」に係る調査結果も高い平均正答率となっているのでしょうか。これについて、A県の授業に関する質問紙を分析したところ、本県との違いが見えてきました。

A県の授業に関する学校質問紙、児童生徒質問紙を見てみると、小・中学校ともに、教師よりも、児童生徒の回答の方が、「主体的な学び」や「協働的な学び」に関して高い数値を示しています〔表7〕〔表8〕。また、授業に関するA県の児童生徒質問紙を見ると、全ての項目で全国平均を上回っています。本県の質問紙で同様の分析を行った〔表3〕〔表4〕と比べればその差は一目瞭然であり、A県の児童生徒は本県の児童生徒より、主体的な学びや協働的な学びを実感していることが分かります。

○ 授業に関する質問（学校質問紙と児童生徒質問紙との比較）

[表7] 学校質問紙から

質問項目	小学校			中学校		
	A県平均	全国平均	差	A県平均	全国平均	差
解決に向けて、自分で考え、自分からできていると思うか。【主体的な学び】	24.1	19.3	4.8	21.1	19.2	1.9
話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか。【協働的な学び】	15.3	15.1	0.2	16.5	20.3	-3.8
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったか。【指導方法改善】	26.5	21.2	5.3	22.0	20.7	1.3

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合（%）



[表8] 児童生徒質問紙から

質問項目	小学校			中学校		
	A県平均	全国平均	差	A県平均	全国平均	差
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか。【主体的な学び】	38.8	30.5	8.3	41.0	31.2	9.8
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたか。【協働的な学び】	44.3	37.7	6.6	50.3	34.1	16.2
自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか。【個別最適な学び】	48.8	36.7	12.1	34.7	22.8	11.9

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合（%）

A県の「思考・判断・表現」の平均正答率が高く、また、**考察①**で見たとおり、「学びに向かう力、人間性等」に係る調査結果が全国平均よりも高い結果となっているのはなぜでしょうか。そして、教師以上に児童生徒が「主体的な学び」や「協働的な学び」を実感しているのはどうしてでしょうか。

いくつかの要因はあるかと思いますが、一つは授業の在り方だと考えられます。A県では、ほとんどの小・中学校で「探究型授業」が行われています。「探究型授業」では、授業の冒頭で学習課題を決め、その上で子供一人一人が思考を展開します。そして、全ての子供が考えをもてた段階で、グループでの話し合いが行われ、各グループの発表を基に学級全体の学び合いが行われます。最後に、それまでの学びを振り返り、自分の学びをまとめ発表します。このように、授業を通して、課題解決が主体的・協働的に図られるプロセスになっています。

つまり、A県では子供たち自身が主体的・協働的な学びを行っていると感じる授業となっており、学習者が主体となった授業が展開されていると言えます。

では、そのような学習者主体の授業を展開していく際に、その根底にある考え方というのはどのようなものでしょうか。

2 学習者主体の授業へ

一律一斉一方向型の指導を行う根底には、大人が教えない限り子供は学ばないし、学ばないという子供観があるのではないのでしょうか。「適切な環境さえ用意すれば、あとは子供たちが自発的に学んでいく」。そんな話をいきなり信用するのは難しいことかもしれません。しかし、まずは、子供は自ら学ぼうとしているという子供観をもつところから始めていきましょう。

では、このような子供観に立つとき、教師にはどのようなことが求められるのでしょうか。まずは子供を信頼し、学びに関わる多くの決定を子供に委ねることが大切です。その上で、子供たちが自立的に学びを進められるように、教師は学習環境を整えたり、資料や教具を工夫したりすることが求められます。また、教師は子供たちだけでは難しい部分についての適切な支援を行うなどのファシリテーター的な役割が求められます。

さらに、子供たちの多様性に対しては、学習の成立に向けて一人一人の子供を丁寧に見取

り、必要に応じて適切な支援をタイミングよく行うことが重要な役割となってきます。

それでは、具体的には学習者主体の授業とはどのようなものでしょうか。

本県でも、すでに「個別最適な学び」や「探究型の学び」に取り組んでいる学校もあります。その取り組んでいる学校の一つが鹿児島市立山下小学校です。

山下小学校（県総合教育センター研究提携校）の国語科では、「個別最適な学び」に着目して、子供が言葉による見方・考え方を働かせ自己調整しながら追究するために、単元及び1単位時間の中で、学びをデザインしています〔図5〕。

単元での学習においては、単元前半では新たに学んだ知識及び技能の定着を図るために課題解決に必要なことを習得し、単元後半では習得したことを活用する自由進度学習を設定しています。

自由進度学習とは、子供が習得したことを生かして時間や場、学習教材を自己選択しながら課題を追究し、スモールステップで学習に取り組んだり、発展的な学習に挑戦したりする学習です。自由進度学習を行う際は、教師は子供一人一人に適切な支援をするために、適宜、子供からの報告の時間を設け、学習進度を把握する必要があります。また、子供は学習計画や「自分の問い」を基に今の自分の学びを振り返り、自ら学びを調整して、次時の課題の解決に向けて、連続・発展した「自分の問い」を新たに立てることが大切になります。

第4学年 国語科 学びのデザイン案

【単元名：中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう】
 (教材名「世界にはこんな和紙」、「伝統工芸のよさを伝えよう」光村4年下) 2組 計33人 指導者 中道 千鶴

単元の目標

- 自分の考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。【知識及び技能(2)ア】
- 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。【C読むこと(1)ウ】
- 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。【B書くこと(1)ウ】
- 「自分の問い」を立て、目的を意識して読み、「かごしま よかとこ リーフレット」を進んで書くこととしている。【学びに向かう力、人間性等】

単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の考えとそれを支える理由や事例、全体と中心など情報と情報との関係について理解している。	① 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。 ② 「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。	① 「自分の問い」を立て、目的を意識して要約しようとしている。 ② 自分の計画に基づいて、「かごしま よかとこ リーフレット」を進んで書くこととしている。

今後の履修する単元

第4学年 国語科：どうももったことを中心にしようかいしよう (教科「うなぎのなぞを追って」)
 第4学年 社会科：「特色ある地域と人々のくらし」
 家庭学習(調べ学習)
 第4学年 総合的な学習の時間(作るよ10年間のアルバム)

単元を見直す問い

試し書きを試してみただけで、要約することができなかった。どのようにしたら書けるのだろうか。

広島の4年生に鹿児島市の魅力を伝えるためには、どのように要約して伝えるとよいだろうか。

リーフレットの構成が分かったよ。自分は何をリーフレットに書こうかな。

長い文章を要約するには、どのように書いたらよいのだろうか。

要約のポイントを使って要約することができるかな。

自分の計画に沿って、リーフレットを書きあげたい。

鹿児島の魅力を要約して、鹿児島の魅力を伝えるぞ。

広島の4年生に鹿児島市の魅力が伝わってうれしいな。鹿児島の伝統工芸について、もっと調べてみたい。

単元の学習活動

1 相手意識や目的意識、要約について確認し、自作の教材「世界にはこんな和紙切り」の要約をする。(試し書き)

2 試し書きを基に「自分の問い」を立て、学習計画を立てる。

3 リーフレットについて知る。
 (1) リーフレットの構成(表紙、説明する文章、裏表紙)について知る。
 (2) 教師作成の「かごしま よかとこ リーフレット」を見て、作りを促える。

4~8 要約の仕方を確認し、ポイントにまとめる。
 (1) 教材「世界にはこんな和紙」の文章を読み、要約に必要な語や文を見付ける。
 (2) 教材「世界にはこんな和紙」を要約し、約した文章を共有する。
 (3) 要約するときに大切なポイントを確認する。

9~15 (自由進度学習)
 「かごしま よかとこリーフレット」を書く。
 (1) 鹿児島市の特産品について、リーフレットを作成する。【本時：11時】
 (2) 学級でリーフレットを読み合う。

教師の手立て

鹿児島市の魅力を伝える相手に広島の小学4年生に設定することで、学習への意欲を高められるようにする。
 ・ 150字程度の自作の教材文を提示し、「簡潔に伝えたい」との発言を引き出すことで、要約することの必要性を感じることができるようになる。

要約の試し書きを書く時間を設定することで、課題に気付く「自分の問い」を立てることができるようになる。
 ・ 「自分の問い」を共有する時間をとることで、単元全体の見通しをもつことができるようになる。
 主：(発話)、「自分の問い」

既製のリーフレットと教師作成のリーフレットを提示することで、リーフレットの構成や特徴を捉えることができるようになる。

題名の言葉や繰り返しの言葉、強調や意味の強弱などのポイントを示すことで、内容の中となる語や文を見付けることができるようにする。
 ・ 学級全体で要約のポイントをまとめる前を設定することで、自分のリーフレットに生かすことができるようになる。
 思・判・表：(ワークシート・ノート・発話)

自由進度学習の9~15時の計画を立てる活動を取り入れることで、学びを自己調整できるようにする。
 ・ 教壇側のワークシートを準備することで、主体的に取り組むことができるようになる。
 ・ 「一人」や「友達と一緒に」、「先生と一緒に」など教室の場の設定を行うことで、学習進度に合わせて場を選ぶことができるようになる。
 思・判・表：(ワークシート、リーフレット)

自分たちのリーフレットと広島の4年生のリーフレットを交換して読み合う時間を設定し、実際にオンラインで感想を交流することで、学びの達成感を味わうことができるようになる。
 ・ 単元全体の振り返りの場を設定し、要約することのよさや学びのよさを価値付けすることで、これからの学習や日常生活における学びへの興味・関心を高めることができるようになる。
 主：(発話、ノート)

見方・考え方 学びの形態 山下小校 時間 講師・観点(評価資料)

図5 山下小学校 国語科 学びのデザイン案

このように単元の中で、できるところから自由進度学習などの「個別最適な学び」を取り入れるなど、今行っている授業のできるるところから変えていくというスタンスで、まずは取り組んでみるのが大切です。

県教育委員会では、[図6]にあるように、これまでの学びから、令和の時代に目指す学びとして、特に「個別最適な学び」や「探究型の学び」へシフトしていくことで、学習者が主体となり、これからの社会を生きていく自律した学習者が育まれていくと考えています。

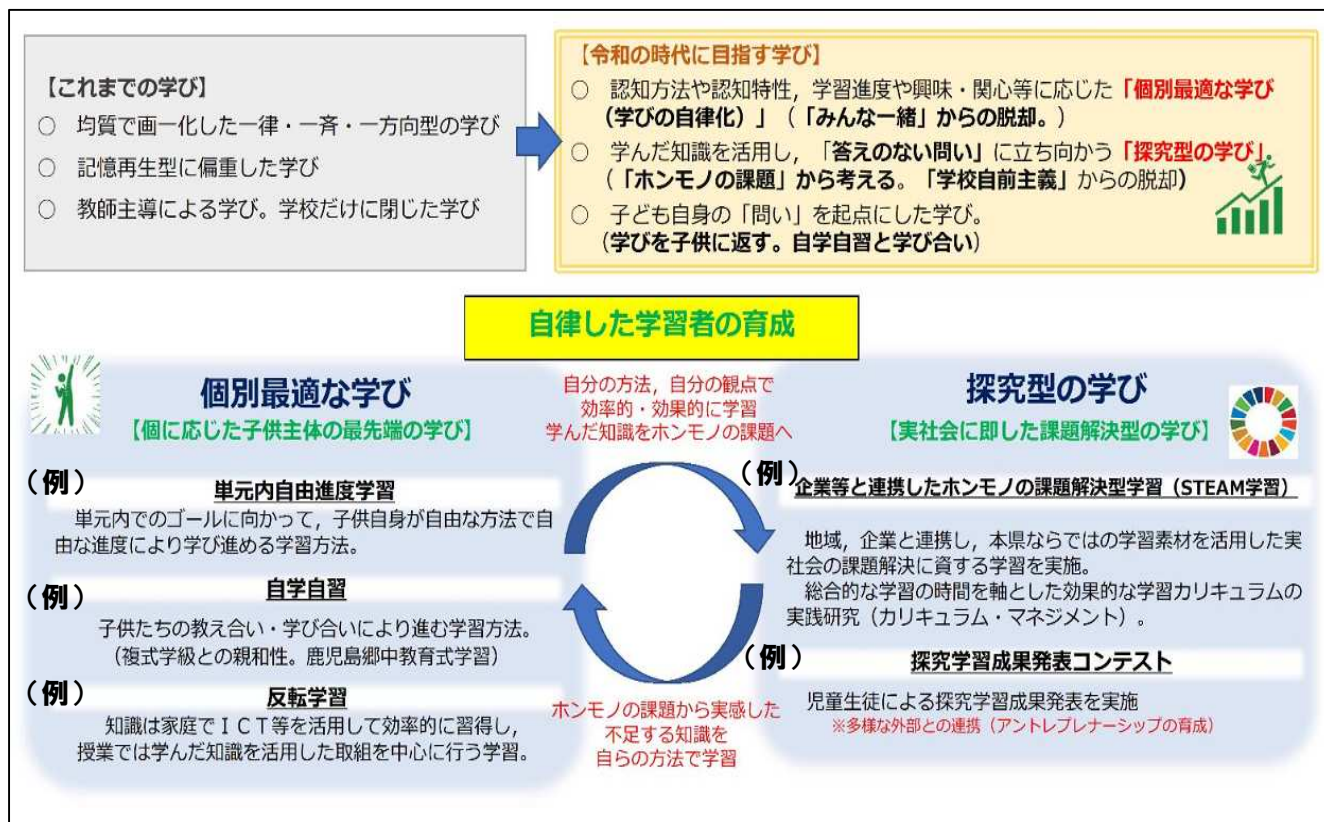


図6 令和の時代に目指す学び

「令和の時代に目指す学び」に向けて、「個別最適な学び」や「探究型の学び」など、先生方が今、行っている授業のできるのところから、学習者主体の授業を始めていきましょう。

3 取組紹介

成果の見られた学校や教育委員会は何をしたのか？

これまでみてきたとおり、時代の変革期にあり、また、学びの在り方自体も大きな転換期にある中、本県における教育実践も、今一度、「そもそも論」や「観」の部分から問い直していく必要があります。しかし、自身の価値観や考え方をアップデートしたり、これまで受けたり行ってきたりする教育実践を変えることは、違和感や、ときには恐怖すら感じることもあるかもしれません。そうした変革期にあるときこそ、良い取組を共有し合い、また、共に語り合う「教え合い・学び合い」の考え方が重要になるのではないのでしょうか。各学校や各教育委員会では、様々な試行錯誤が繰り返されていることと思いますが、そうした中、本県においても、着実に、新たな実践が生まれ始めています。そこで、今回、学力調査の結果においても特に顕著な成果を上げている学校や教育委員会の取組を、一部、紹介することとしました。各事例の提供者からは、全て連絡先を載せることの快諾をいただいておりますので、「これって何だろう？」「どうやってやったんだろう？」など、さらに具体的に聞きたいことがあれば、どんどん問い合わせをし、良い実践を共有し合うようお願いいたします。こうした「教え合い・学び合い」を通して、本県全体の教育の質的向上が図られていくことを願っています。

学校の取組例

～ 自己肯定感の向上を基盤とした学力向上 ～ 【鹿児島市立紫原小学校】

ポイント

一人一人が自分の良さや可能性を実感し、ありのままの自分を認めたり、他者の良さを認めたりしながら、解決方法を自分で決定し、主体的・協働的に問題解決を行うことで、高め合う子供を育成しています。

○ 学校の概要

児童数:599人 学級数:28学級 教員数:38人

○ 特色ある取組

自己肯定感を高めるために、「学習に参加する。」「自己決定する。」「意見を尊重する。」「自己の変容を実感する。」の4視点を取り入れて、授業づくりを行っています。

(次ページ参考資料1参照)



自己肯定感に着目して、授業においても自分の良さや可能性を実感したり、他者の良さを認めたりできる授業づくりに取り組んでいます。

問合せ先:099-251-1323



コラム 非認知能力を鍛える方法 ～自制心～

認知能力は短期的な影響しかもたらさないにも関わらず、非認知能力は長期的に大きな影響をもたらすことは、**考察①**でも述べたとおりです。このことを踏まえ「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指し、非認知能力に焦点を当てて取り組んでいる学校もあることと思います。

では、非認知能力を鍛えて伸ばすにはどうすれば良いのでしょうか。

中室(2015)は次のように述べています。「社会に出てからも重要な非認知能力の一つである自制心は、筋肉のように鍛えると良いと言われています。筋肉を鍛えるときに重要なことは、継続と反復です。腹筋や腕立て伏せのように、自制心も、何かを繰り返し継続的に行うことで向上します。たとえば、先生に『背筋を伸ばせ』と言われ続けて、それを忠実に実行した学生は成績に向上がみられたことを報告している研究があります。もちろん、背筋を伸ばしたことが直接、成績に影響を与えたわけではありません。『背筋を伸ばす』のような意識しないとしばらくのことを継続的行ったことで、学生の自制心が鍛えられ、成績にも良い影響を及ぼしたのでしょう。

また、心理学の分野でも、『細かく計画を立て、記録し、達成度を自分で管理する』ことが自制心を鍛えるのに有効であると多数の研究で報告されています。」

授業づくり

-Creating Lessons-

実践単元及びねらい

第6学年 国語科・総合的な学習の時間

単元名 「表現の工夫をとらえて読み、それをいかして書こう」

関連単元 「おいでよ鹿児島! Made in Murasakibaru」

(総合的な学習の時間)

ねらい

- 筆者のものの見方・考え方や表現の工夫を捉えることができる。
- 筆者のものの見方・考え方や表現の工夫を、自身の表現に生かすことができる。
- 相手の考えを尊重しながら、自分の考えを深めることができる。
- 学習の成果や方法、過程を振り返り、自己の反省を実感することができる。

4視点に基づいた授業研究

-Practice実践-

- 単元 -

- 1 単位時間 -

学習に参加する
自己決定する
意見を尊重する
自己の変容を実感する

魅力的な課題設定

学習したことを生かして、鹿児島よさを、大阪の同級生に伝える!



ゴールの自己決定



必然性のある課題設定

前の授業の課題を解決するために、今日は、追加調査をしてから友達に確認するような計画を立てて取り組もう!



自己の学びのデザイン



観点を意識した対話

比較 具体 選択 分類 統合 関連 帰納 演繹 等

対話の約束事



聞き方名人



話し方名人

5つの観点による振り返りと教師からの価値付け

成果
知識・技能

追究の仕方・方法
資質・能力

他者との関わり
協働性

学習のつながり
知的好奇心・意欲

質問・疑問・要望
授業改善の視点

学習計画は少し変更したけど、友達からのアドバイスを生かして昨日までの課題を解決することができた! 次の時間は、もう少し追加調査をしたい!



振り返りへの教師からの価値付け



全職員参加型授業研究

それぞれがプレゼンする授業研究

- やらされる研修ではなく、主体的に取り組む研修 -
4 視点を基に、それぞれが目指す子供像の具現化を目指し、様々な授業スタイルを提案する、自由度をもった検証スタイル

一人1授業

年間一人1つの授業を公開し、指導力の向上に努める。
※ 専科含む全教員

段階的な検証

1年を3つのPhase (フェーズ) に分け、段階的に研究テーマについて検証を進めていく。

リレー検証

学年で連続する単位時間を参観し合い、単元構成や単位時間のつながりを踏まえ、検証する。

ICT活用

指導案作成: Google スライド
授業検証: Google Jamboard
Google Forms

～ デジタル端末を活用した予習型授業 ～ 【鹿児島市立桜峰小学校】

ポイント

教師は、授業の終末で翌日の授業の導入を行い、児童は、自宅に持ち帰ったデジタル端末で予習課題の解決を行います。学校での授業は、課題解決の成果を発表し合う「展開」から始まり、学習のまとめ「終末」、「習熟の過程」を経て翌日の授業の導入で終わります。

○ 学校の概要

児童数:27人 学級数:4学級 教員数:7人

○ 特色ある取組

従来の学校だけで行う指導過程「導入」「展開」「終末」を、家庭での「予習」を含めた指導過程「予習」「展開」「習熟」「導入」に再編成しています。

そのために、学びへの探究心が授業と授業、学校と家庭とでつながっていきます。

<予習型授業の特長>

- ・ 指導過程を再編成し、新たに「習熟の過程」を位置付けています。
- ・ 「習熟の過程」では、個人の目的に応じてデジタルドリルを活用するため、学びの個別最適化が行われます。
- ・ 授業の終末で翌日の授業の導入を行うため、家庭での予習や、課題解決への意欲が継続されます。



予習で考えたことを基に、仲間や教師と課題を解決していこうとする児童の姿



反転授業を取り入れ、児童の主体性を大切にされた学びが行われています。家庭では個別最適に、授業では協働的な学びを中心に行っています。

問合せ先:099-293-2005

～ 学びの変容の振り返りと見届け ～ 【錦江町立田代中学校】

ポイント

子供が学びを多面的に振り返る場面を全教科で行うことで、自身の学びの変容を自覚し、自らの学びを調整しながら学習を進めています。

○ 学校の概要

生徒数:38人 学級数:3学級 教員数:10人

○ 特色ある取組

全教科で次の4視点で振り返りを行っています。

- 1 理解・内容・・・ 何が分かったか、どんなことを考えたか。
- 2 方法・活用・・・ 何ができるようになったのか、学んだことを何に生かせるようになったのか。
- 3 納得・・・ 他者の考えやなるほどと思ったことに触れ、自分の考えがどのように変わったのか。
- 4 追究(疑問)・・・ 疑問に思ったことやさらに知りたいことは何か。

子供が学びの過程を振り返り、自覚することに加え、教師が見届けを充実させることで教師の授業づくりの振り返りにもなり、授業改善につながっています。



<振り返り> ①理解・内容 ②方法・活用 ③納得 ④追究(疑問)
【①③】
今回は、EUの経済とこれからについて学んだ。私は、今の不安定な状態で拡大を進めるのはよくないと思っていたが、〇〇さんの「拡大を進め、ヨーロッパを一つにして平和にする。」という意見を聞いて、なるほどと思った。ほかの人の意見を聞いて、より多くの面から考えることができるようになった。

「振り返り」の内容

単なる感想ではなく、全教科で視点を明確にして、振り返りの質を高めることで、自らの学びを調整する力を育成しています。



問合せ先:0994-25-2006

～ 子供の学びの姿を基にした校内研修 ～

【薩摩川内市立川内南中学校】

ポイント

教科の枠を越えて子供の学びの姿(事実)を基に授業研究を行うことを通して、効果的な授業づくりにつながる校内研修を行っています。

○ 学校の概要

児童数:561人 学級数:19学級 教員数:39人

○ 特色ある取組

先のコラムで紹介したコアスクールプロジェクトの「コアスクール」として校内研修の充実を図っています。

子供の学びの姿を見とり、その事実から分かることを軸に協議を行うため、教科の枠を越えた活発な協議が繰り広げられています。また、育成指標を基にグループ編成を行ったり、ファシリテーターの育成を意識したりすることで、多様な意見が交わされています。

この研修を通して、学習者主体の授業を職員が意識するようになっていくとともに、職員同士の職能集団としての同僚性が高まり、学年部や校務分掌組織においてもチームで取り組む姿が見られ、学校や学年が組織体として躍動しています。



教師が子供の学びの姿を見とり、その解釈について話し合う様子



子供の学びの姿(事実)に着目した授業研究のため、教科の枠を越えて協議が活発に行われ、学習者主体の授業改善につながっていきます。

問合せ先:0996-23-4602

～ サーバント型リーダーシップ ～

【薩摩川内市立隈之城小学校】

ポイント

サーバント型(支援型)リーダーの働き掛けで職員の自己肯定感や有用感が高まり、職員集団が主体的に授業改善や研修等に取り組んでいます。

○ 学校の概要

児童数:719人 学級数:30学級 教員数:40人

○ 特色ある取組

校長自ら積極的に職員に声掛けを行い、職員とのつながりをつくることはもちろん、職員の努力した過程を時宜を得て具体的に称賛し、職員の自己肯定感や有用感を高めることを大切にしています。

また、年度当初から、職員の語らう場づくりや協力して作業を行う場を多く設定し、職員の良い関係性を築くようにしています。さらに、若い職員を学年部に均等配置し、学年部で育てる環境づくりを行ったり、ベテラン職員やミドルリーダーの活躍の場を数多く設けたりしました。

このように職員の友好的な同僚性を高めた上で、研修主任を中心とした校内研修の体制づくりを行い、一人一研究授業を柱とした授業改善の取組を通して、職能集団としての職員の意識改革と実践意欲の向上に向けた取組を続けています。

児童も教師も頑張ってます! 頑張りつくり

新年度、職員の仕事のやりかたを子どもに説明し、授業や行事の準備をみんなで行いました。1日1日頑張る積み重ねが、子どもたちの成長につながります。児童も教師も一緒に頑張る姿が、学校を盛り立てています。



子供の頑張りとともに職員の頑張りも保護者や地域へ伝えていくブログ



児童生徒のみならず、職員の自己肯定感を高めることも重要です。職員の自己肯定感を高め、職員の友好的な関係が構築されたことに加えて、職員一人一人の良さを発揮させて、お互いに高め合う職能集団が組織され、その同僚性を発揮して職員が主体的に学校改善に取り組んでいます。

問合せ先:0996-23-2604

～ 学校における児童生徒の実態把握や
授業改善に向けた取組への支援 ～ 【肝付町教育委員会】

ポイント

全国学力・学習状況調査の結果や国立教育政策研究所が作成した資料などを積極的に活用することにより、学校における児童生徒の実態把握や授業改善に向けた取組を支援しています。

○ 特色ある取組

<学校との関わり>

- ・ 全教職員を対象に、オンラインによる研修講座を月に1回実施しています。各学校では校内研修に位置付けるなどの工夫をして参加しています。
- ・ 各学校の教頭と研修主任等で構成する学力向上対策委員会を定期的に開催し、単元ごとに「指導と評価の計画」を作成することの重要性を再認識させています。

<全国学力・学習状況調査に関する取組>

- ・ 町が作成した分析シートに基づき、学力向上対策委員会や各学校で全国学力・学習状況調査の結果を分析し、国立教育政策研究所の報告書を参考に誤答傾向から児童生徒の『つまずき』を把握します。
- ・ 把握した『つまずき』が教員の指導方法に起因する場合は、国立教育政策研究所が作成した「授業アイデア例」などを参考に各学校の状況に応じて授業改善の具体策を作成し授業改善を進めさせています。基礎学力の定着に起因する場合は、演習問題を活用した学習を単位時間内に位置付けるなど、確実に基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るよう指導しています。
- ・ また、全国学力・学習状況調査の実施教科ごとに各学校の教科主任を集め、国立教育政策研究所が作成した「解説動画」を視聴したり、授業改善の必要性や改善案などについて意見交換する場を設けたりしています。



行政が積極的に学校に関与している姿勢が見受けられます。行政として「当たり前」の事を当たり前にする。「各学校の実態に即して継続的に丁寧に指導、支援をする。」ことの重要性を実感します。

問合せ先:0994-65-8425



コラム 一斉一律の宿題からの脱却 個別最適な自主学习へ 【知名町教育委員会】

教育委員会が一斉一律の画一的な宿題からの脱却を図るべく「家庭学習のすすめ」のパンフレットを作成し、小、中学校全ての保護者に配布し、自主学习の取組を推進しています。

児童生徒が自身の学習状況等を振り返り、自ら学習課題を決定する自主学习ノート(自学ノート)の取組など、家庭と連携して、学びに向かう力の育成を推進しています。初めは戸惑っていた児童生徒も友達の取組状況などを参考に、少しずつ充実してきました。

前述の、全国学力・学習状況調査で継続して高い正答率を維持しているA県の特徴的な取組としても紹介されることも多いです。(次ページ参考資料2参照)

問合せ先:(代)0997-84-3158

Point2

宿題から自主学習へ 広げましょう！

「家庭学習＝宿題」ではありません！

学校から与えられた宿題だけをしては、「自分で学ぶ力」は育ちません。自分の弱点や課題を見付け、克服のために取り組んだり、自分の興味・関心があることを調べたりすることで身に付きます。学校で「何を学んだか」、「何を知っているか」ということだけでなく、「どのように学ぶか」という学び方を身に付けることは、これからの時代を生きる子どもたちにとって必要となる力です。



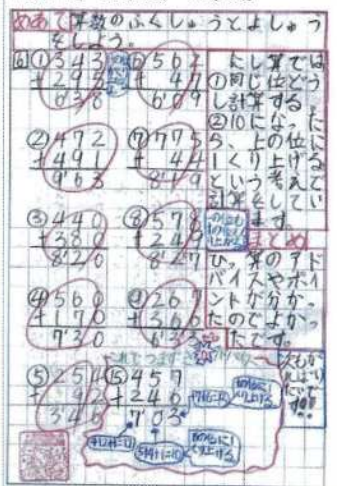
自主学習ノート(自学ノート)で学ぶ力をつけましょう

自主学習ノート（通称「自学ノート」）は、子どもが毎日、自分で学習する内容を決めて取り組む家庭学習用ノートです。

自主学習ノート（自学ノート）のねらい

低学年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字や計算の力を付ける。 その日学習したことを復習する。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> 学校で学習した内容を自分のものにする。 自分で答え合わせをし、間違いを見付ける力や分からないことを調べる力を付ける。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> 読み書きや計算を確実にできるようにする。 間違っただ箇所を復習し、同じ間違いをしないようにする。 疑問に思ったことや詳しく知りたいことを探究・追究する力を付ける。

10月14日 16時30分～16時50分



自学ノート参考例

<5つの約束>

- ①日付を書く
- ②取り組む内容を書く
例)計算ドリルの○番、教科書に出てくる漢字など
- ③取り組んだ時刻を書く
例)16時00～16時30分、17時30分から30分間など
- ④「めあて」を書く
例)10分で10問とけるようになる。など
- ⑤「振り返り」を書く
めあてに対して、自分がどこまで達成できたと思うかを書く。

取組例

- 授業で習ったところを復習する。
- 漢字の成り立ちについて調べる。
- 歴史上の人物について調べる。
- 新聞を読んで興味をもった記事の感想を書く。
- 慣用語や重要語句をまとめる。
- ドリルや発展問題に取り組む。

～ 地域や保護者とねらいを共有した探究的な学び ～ 【与論町教育委員会】

ポイント

町内全ての小・中学校で、海洋教育科「ゆんぬ学」を柱とした、探究的な学びに取り組むとともに、その学び方の良さを、各教科の実践にも生かしています。

○ 特色ある取組

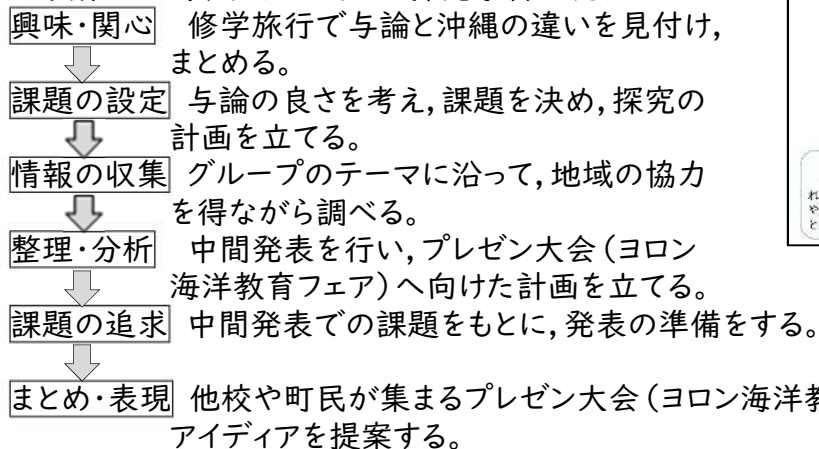
与論の子供たちに「島だち後にも自分の夢や目標を追い求め続け、新しい社会でよりよく生きていくための資質・能力」を一体的に育むことをねらいとして、地域や保護者とも共有した上で、令和4年度から全ての小・中学校で海洋教育科「ゆんぬ学」（「ゆんぬ」は与論を意味する。）を新設し取り組んでいます。

「ゆんぬ学」は海そのものや、海に守られた自然や文化、海と共に生きる地域の人々を素材とした探究的な学びで、小学3年生から中学3年生まですべての学年で行われています。

<茶花小学校の取組例>

6年生：ヨロンのタカラ探し!! (54時間)

～与論の地域活性化に向けた探究学習の流れ～



町全体で共有しているねらい（QRコードで誰でも閲覧可能）



町全体で目指す資質・能力を明確にして、地域や保護者とねらいを共有した上で、探究的な学びを進めています。本県には、探究的な学びのための学習素材が多くあります。探究的な学びの良さを各教科の実践に生かし、また、各教科で学んだことを探究的な学びで生かすという好循環が生まれていくといいですね。



問合せ先：(代)0997-97-3111



コラム 読解力（リーディングスキル）の育成 【西之表市教育委員会】

全国学力・学習状況調査の調査問題を見ると、出題意図を的確に読み取る力が問われている問題が出題されていますが、子供たちが問題を解く力が不足しているのか、そもそも問題文を読めていないのか、判断に迷うところがあります。そこで、西之表市では市内全ての小中学校で文章に書かれている意味を正確に捉える力（基礎的な読む力）を測定・診断するリーディングスキルテストを実施し、その結果を基に、子供たち一人一人の「読解力」の状況を把握し、その分析を基に読解力向上のための授業に取り組んでいます。

また、リーディングスキルテストを開発した新井紀子教授（国立情報学研究所 センター長）を招いて、教職員を対象にモデル授業を含めた研究会を実施しています。

自学自習ができるようになるためにも、しっかり教科書を読み、教科書と向き合える子供の育成を市全体で行っています。

問合せ先：(代)0997-22-1111

分析について

各学校では、職員研修等で全国学力・学習状況調査の結果を分析していることと思いますが、分析を行う際に、何を目的として、どのように分析を行っているのでしょうか。

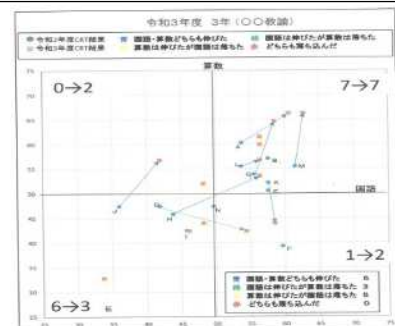
全国学力・学習状況調査は、授業で育成する資質・能力がどの程度身に付いているかを確認する良質な調査です。当該調査の分析を充実させることで、実態を正確に捉え、授業改善をはじめとする教育活動の改善に効果的に反映させることができます。

〔表9〕令和4年度「取組調査から」 小学校 486校、中学校 207校（複数回答）

分析方法等	小学校	中学校
文部科学省（一次資料）のデータを分析した。	91.2%	89.9%
経年、学級間や他調査を生かした追跡調査などを作成（二次資料）して分析した。	49.2%	50.2%
分析結果から2学期以降取り組むべき具体的な対応策や目標を設定した。	95.1%	91.3%

～二次資料の具体～

- ・ 児童個々の課題の把握と個別最適な学ばせ方
- ・ 教育事務所が刊行した資料で紹介された内容（算数、プログラミング）
- ・ NRTの分析結果との比較・分析（全体・個人）
- ・ 個に応じた対応の在り方（アンダーアチーバーへの対応）
- ・ 児童の回答傾向と課題 など



児童一人一人の経年変化をグラフ化した二次資料

〔参考〕与論町立与論小学校の取組

問合せ先:0997-97-2241 ←

上記調査から、多くの学校で、一次資料を分析し、今後の取り組むべき具体的な対応策や目標を設定しています。一方で、二次資料を作成し、分析している学校は、小学校、中学校共に半分程度しかありません。

大切なのは、学校の実態に応じてどのようなデータが必要かという視点です。そのためには、着目する調査結果を抽出したり、他の調査結果との関係を比較したりするなど二次資料を作成すると、より課題が明確になり、改善策も立てやすくなります。調査を受けたり、良い成績を残したりすること自体が目的化してはならず、調査の本旨を見つめ直し、しっかりと分析・改善につなげていくようお願いします。分析の際は、行政と積極的な連携を図ることも考えられます。

基本的な分析方法

ステップ1:結果の見える化

基礎データを活用して観点を明確にした二次データを作成して視覚化し、全職員で共有する。

ステップ2:データの関係性を導く

視覚化したデータを職員それぞれで読み込み、データ（根拠）から分かることやそれぞれの関係性など気付いたことを出し合い、意見交換を行う。

ステップ3:原因の追究、指導の在り方の検討

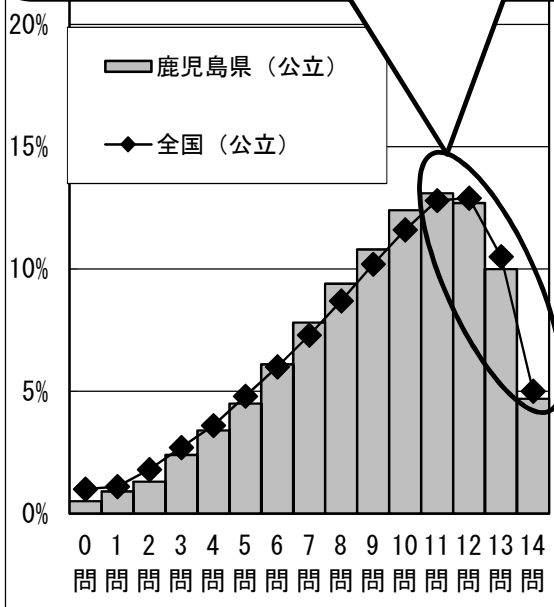
意見交換から出された課題等を分類し、その原因を話し合う、また、その原因を解決するための具体的な指導を話し合う。

4 教科別、観点別及び領域別の結果概要

(1) 教科別正答数分布から

【小学校】
【国語】

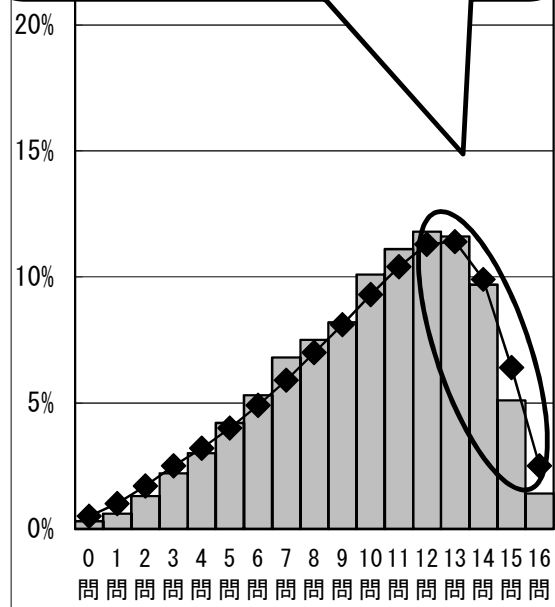
- ・ 11問以上正答した児童の割合が全国より低い。[本県40.5% 全国41.2%]
- ・ 前回調査[本県53.4%]より上位層が減少したことから、中位層への効果的な指導の継続が必要である。



※ 下線の値は全国(公立)の中央値+1問にそろえています。

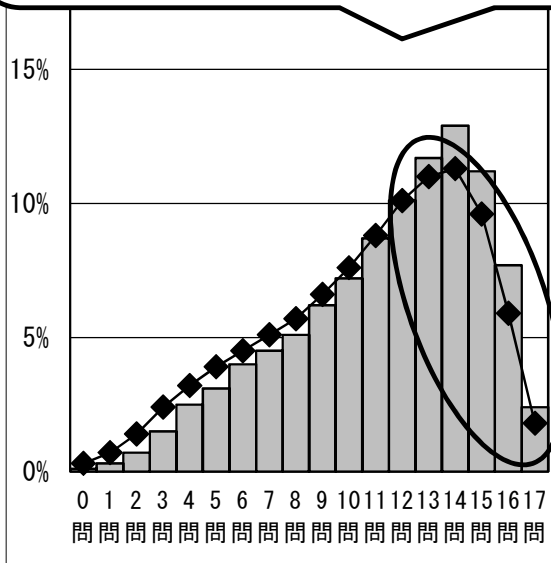
【算数】

- ・ 12問以上正答した児童の割合が全国より低い。[本県39.6% 全国41.5%]
- ・ 前回調査[本県44.2%]より上位層が減少したことから、中位層への効果的な指導の継続が必要である。



【理科】

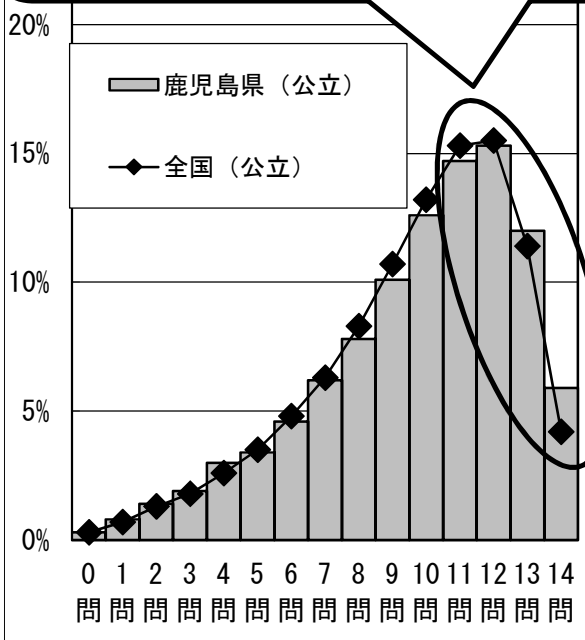
- ・ 12問以上正答した生徒の割合が全国より高い。[本県56.0% 全国49.7%]
- ・ 前回調査[本県40.0%]より上位層が増えたことから、中位層への指導の手立てが効果的であった。



※ 下線の値は全国（公立）の中央値+1問にそろえています。

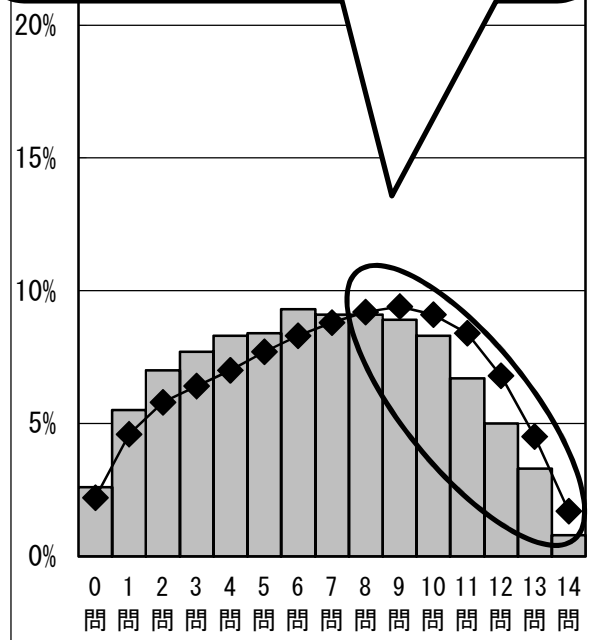
【中学校】
〔国語〕

- ・ 11問以上正答した生徒の割合が全国より高い。
〔本県47.9% 全国46.4%〕
- ・ 前回調査〔全国との差-0.6〕は、全国との差がマイナスであったが、今回調査はプラスに転じたことから、中位層への指導の手立てが効果的であった。



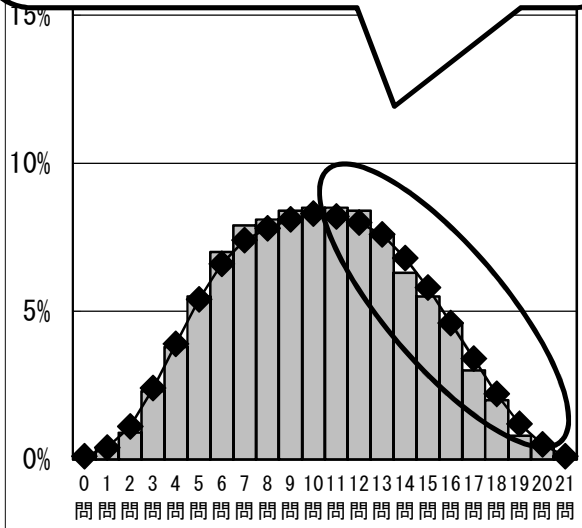
〔数学〕

- ・ 8問以上正答した生徒の割合が全国より低い。
〔本県42.1% 全国49.1%〕
- ・ 下位層、中位層ともに、全国よりも多いことから、下位層、中位層への実態に応じた手立てが必要である。



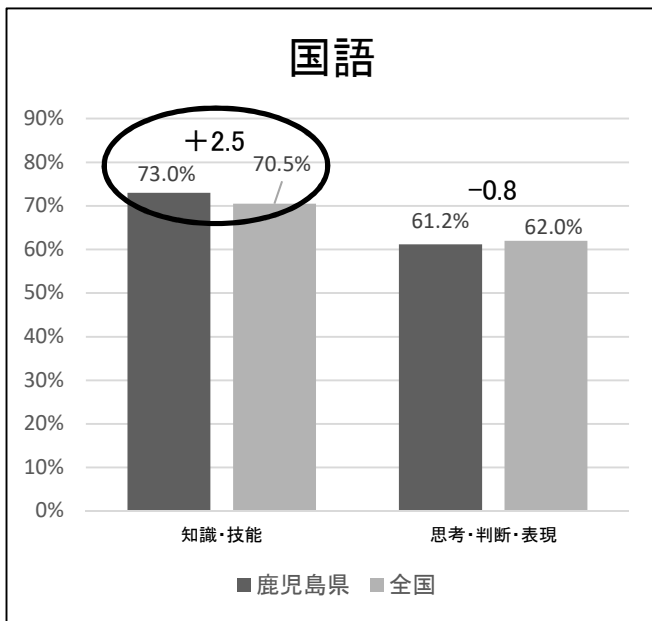
〔理科〕

- ・ 11問以上正答した生徒の割合が全国とほぼ同じ。
〔本県47.3% 全国48.4%〕
- ・ 前回調査〔本県40.4% 全国43.5%〕より全国との差は縮まりつつあり、中位層への指導の手立てが効果的であった。
- ・ 中位層への効果的な手立ての継続と、下位層の実態に応じた手立てが必要である。

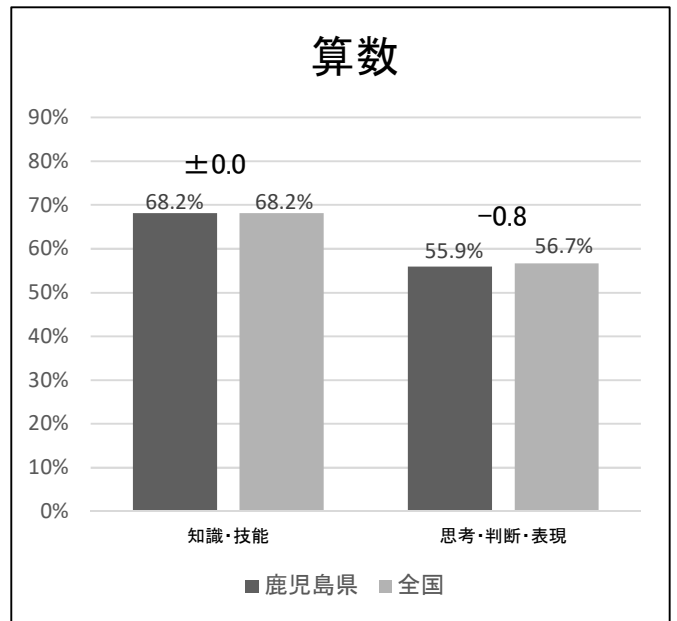


(2) 観点別の平均正答率から

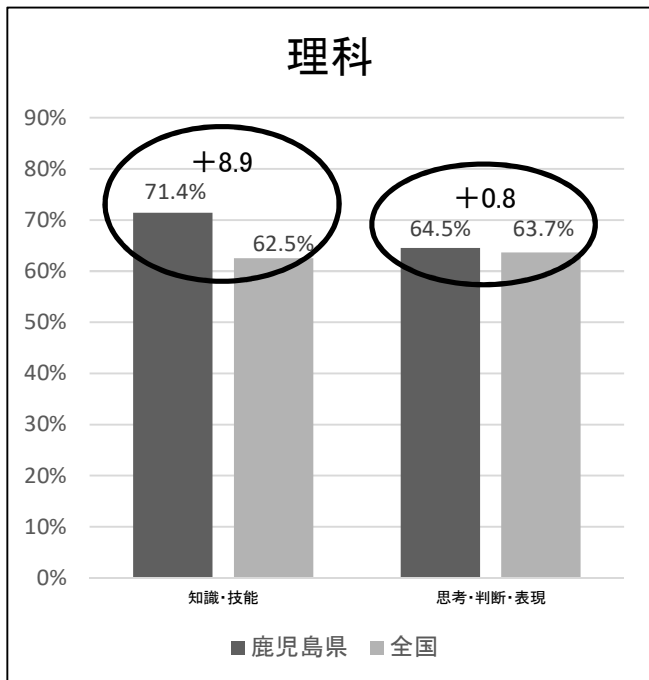
【小学校】



知識・技能は前回調査に引き続き、全国の平均を上回っている。
 思考・判断・表現については、前回の調査では全国との差が+1.9であったが、今回の調査では-0.8となっている。

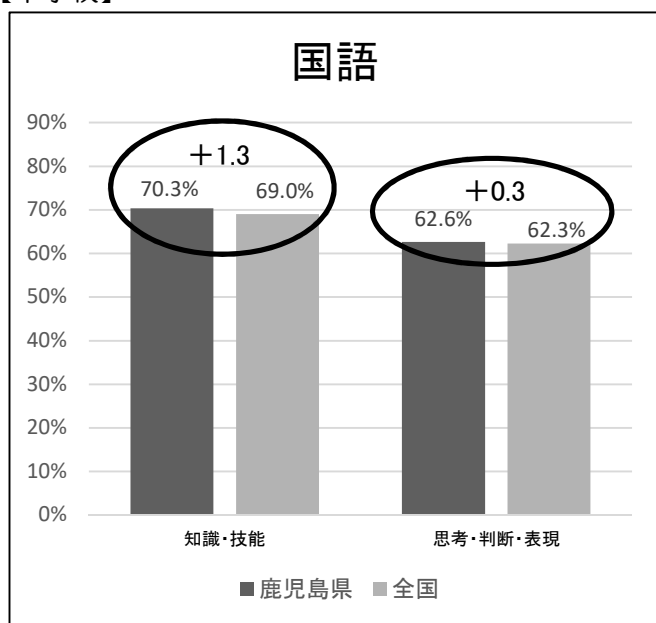


知識・技能については、全国の平均と同等である。
 思考・判断・表現については、前回の調査では全国との差が+1.7であったが、今回の調査では-0.8となっている。



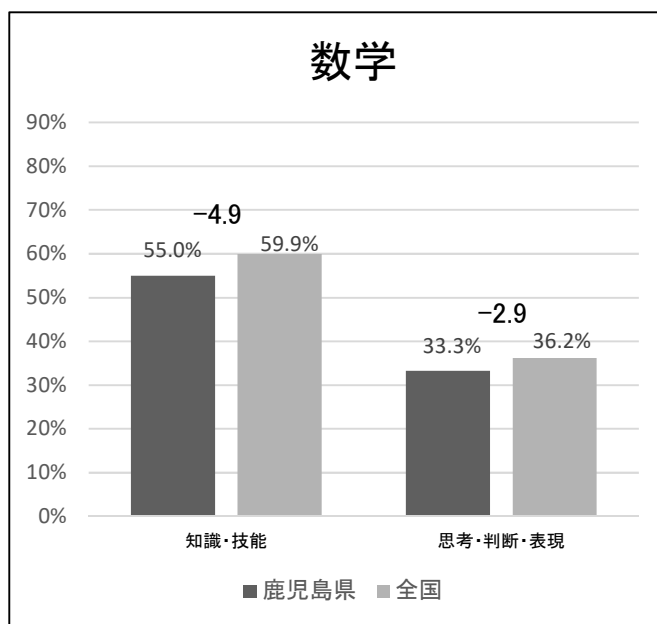
知識・技能については、全国の平均を大きく上回っている。
 思考・判断・表現についても、全国の平均を上回っているが、知識・技能の全国の平均との差+8.9に比べると、+0.8と差が小さい。

【中学校】



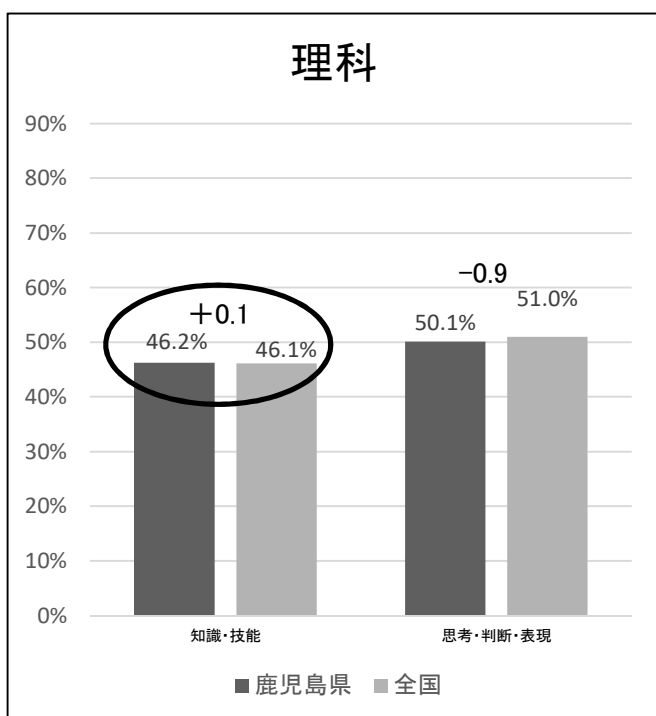
知識・技能, 思考・判断・表現ともに, 全国の正答率を上回っている。

前回の調査では「言語についての知識・理解・技能」が全国の正答率との差-0.4に比べて, 今回の調査では知識・技能が+1.3となっている。



知識・技能, 思考力・判断力・表現力ともに, 全国の平均を下回っている。

前回の調査では「数量や図形などについての知識・理解」が全国の正答率との差+0.3に比べて, 今回の調査では知識・技能が-4.9となっている。

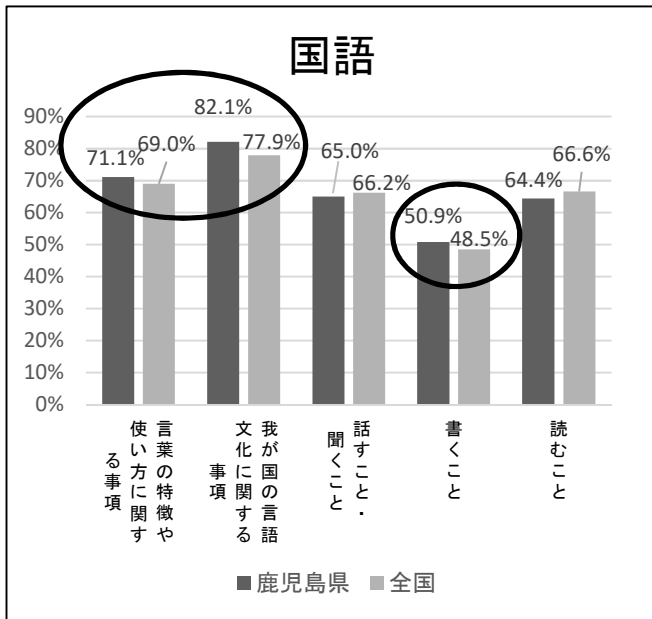


知識・技能については, 全国の正答率を上回っている。

思考・判断・表現については, 前回の調査では「科学的な思考・表現」が全国の平均との差-1.8に比べて, 思考・判断・表現が-0.9となっている。

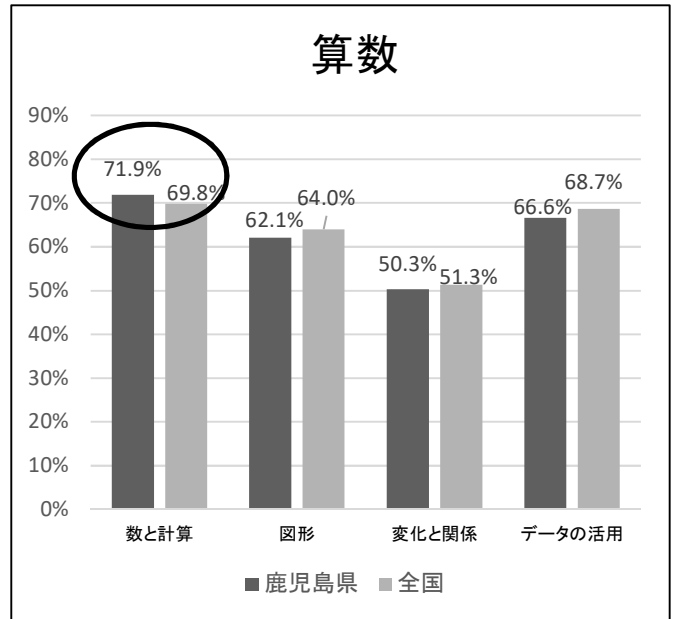
(3) 領域別の平均正答率から

【小学校】

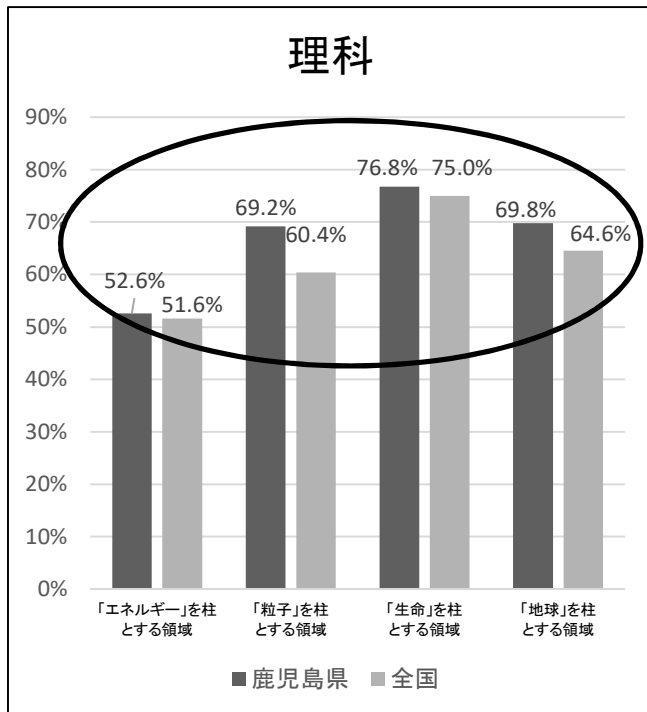


5領域のうち、3領域で全国の正答率を上回っている。3領域ともに、前回調査から引き続き全国の正答率を上回っている。

「話すこと・聞くこと」は前回調査に引き続き、全国の正答率を下回っている。

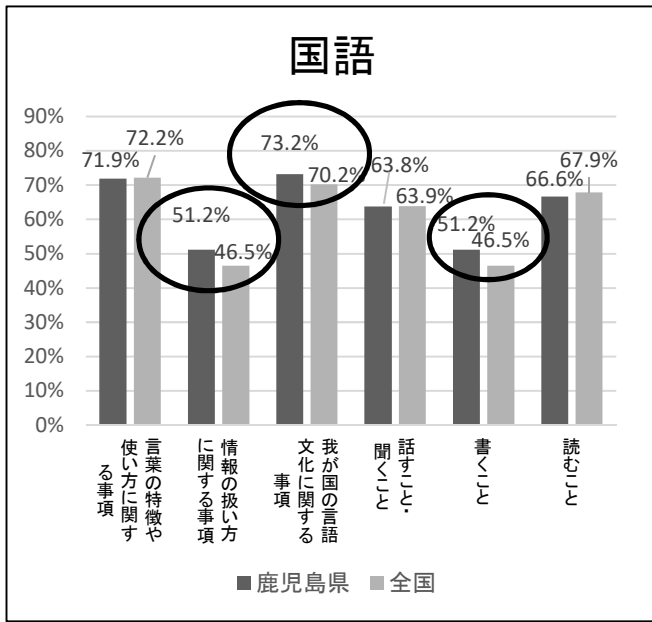


4領域のうち、1領域で全国の正答率を上回っている。「変化と関係」の領域は前回調査は全国の正答率との差が-2.2と比べると、今回調査は-1.0と差が縮まっている。

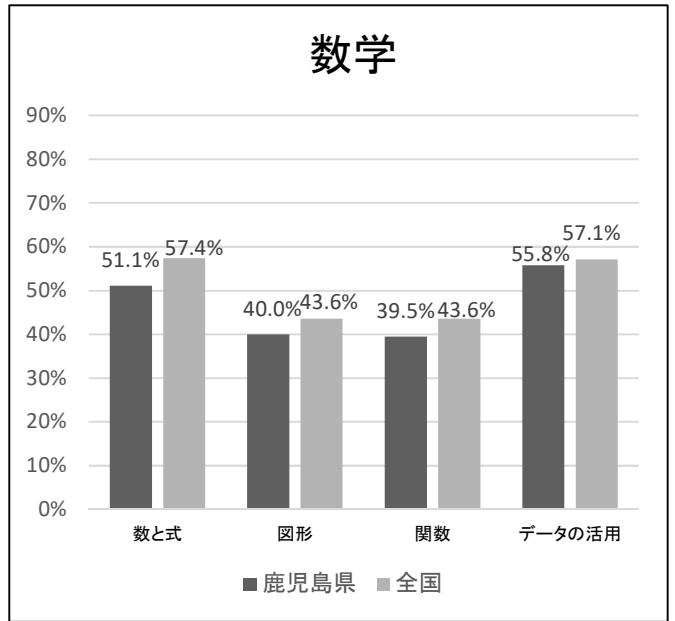


4領域のすべてにおいて全国の正答率を上回っている。特に、「粒子」を柱とする領域は、全国の平均正答率を+8.8ポイント、「地球」を柱とする領域は、全国の平均正答率を+5.2ポイント上回っている。

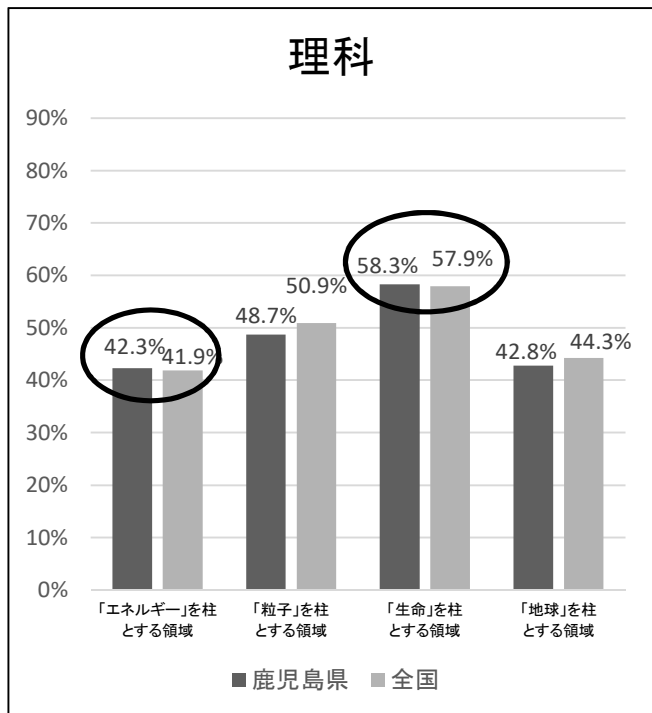
【中学校】



6領域のうち、3領域において全国の正答率を上回っている。前回調査の「書くこと」は全国の正答率との差は-0.2であったが、今回調査では+4.7に向上している。



4領域すべてにおいて、全国の正答率を下回っている。前回調査の「数と式」は全国の正答率と比べると-1.2だったものが、今回調査の「数と式」は-6.3に大きく差が広がっている。



4領域のうち2領域で全国の正答率を上回っている。前回調査で「地学的領域」の全国の正答率との差は-2.6と比べると、今回調査で「地球」を柱とする領域の全国の正答率との差は-1.5と差が縮まっている。

5 指導法改善のポイント

国 語【小学校第6学年】

授業改善のポイント

- 自分の考えを、描写（叙述）を根拠として示し、表現させる。

正答の状況

年 度		令和4年度	令和3年度
平均	県	9.3問／14問	9.4問／14問
正答数	全国	9.2問／14問	9.1問／14問
平均	県	66%	67%
正答率	全国	65.6%	64.7%

今回の調査結果から明らかになった成果と課題

成果1	文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること
成果2	漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと
課題1	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること
課題2	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること

成果が見られた問題の概要

○成果1 設問番号 3 一

【学習指導要領における領域・内容】

【第5学年及び第6学年】 B 書くこと オ

文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。

【設問の概要】

【文章2】の[]の部分で、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する。

【平均正答率(%)】

3 一	本県	全国	差	自校
	62.9	59.2	+3.7	

文章全体の構成を問うような設問は、長年課題があった内容である。そこで、近年は鹿児島学習定着度調査に類似の問題を出題してきた。R3年度の鹿児島学習定着度調査の類似の問題の正答率を見ることにより、自校の取組の様子を分析することができる。

R3鹿児島学習定着度調査 大問3一	R3鹿児島学習定着度調査 大問3一
【県通過率】68.9	【自校通過率】

○成果2 設問番号 3 四

【学習指導要領における領域・内容】【第3学年及び第4学年】知識及び技能

知識及び技能(3)エ(イ)漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。

【設問の概要】

(一)から(二)に書き直した際、気を付けた内容として適切なものを選択する。

【平均正答率(%)】

3 四	本県	全国	差	自校
	82.1	77.9	+4.2	

書写指導においても、自分の作品を分析するような振り返りの時間を大切にしてほしい。

課題が見られた問題の概要, 問題点とその改善点

課題が見られた問題の概要

▲課題1 設問番号 2 - (2)

【学習指導要領における領域・内容】〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと イ
登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えること。

【設問の概要】

「老人」が未来の「ぼく」だと考えられるところとして適切などころを選択する。

【平均正答率(%)】

	本県	全国	差	自校
2-(2)	66.7	70.6	-3.9	

問題点とその改善点

登場人物の相互関係を、描写を基に捉えることができているかを問う設問である。自分の考えの根拠を、描写を根拠として明確に示し答える設問は例年課題が見られる内容である。

【授業改善例】

<全国学力・学習状況調査の報告書にある授業アイデア例P41からを参考にする。>
～光村図書小5「たずねびと」の学習で活用できます。～

- ペア学習等を取り入れて、全文シートに、登場人物の相互関係が表れている描写を付箋に書かせ、それを貼り出す中で、どのような関係かを書き込むような時間を設定する。一人では気付けない内容も複数人で取り組むことにより、暗示的に示している描写などに気付くことができる。
- 自分の考えの根拠を、描写を根拠として明確に示すことに課題があるため、「読むこと」の授業において、板書やワークシートに、自分の考えと描写(根拠)を分けて示す指導を行う。
- 発表させる際には、デジタル教科書に線を引かせたり、全文を提示して描写(根拠)を指し示しながら、自分の考えを発表させるようにする。

課題が見られた問題の概要

▲課題2 設問番号 2 三

【学習指導要領における領域・内容】〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと エ
人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。

【設問の概要】

【山村さんの文章】の B に入る内容として適切なものを選択する。

【平均正答率(%)】

	本県	全国	差	自校
2 三	56.8	59.2	-2.4	

問題点とその改善点

文章の表現が、読み手にどのような効果を与えるかについて、自分の考えを明らかにする設問である。課題1にある、描写を基に捉える活動と同様、文章の表現に着目して授業を展開する必要がある。

【授業改善例】

<全国学力・学習状況調査の報告書にある授業アイデア例P44を参考にする。>

- 「読むこと」の学習においては、叙述(文章表現)に着目させて、その意味や文章が読み手に与える効果などについて話題にする場面を設定する。
- 本の推薦文を書く授業においては、必ず本にある文や文章を取り上げて、その文や文章からどのような考えをもったか等、叙述を根拠にして書かせる活動を位置付ける。

国 語【中学校第3学年】

授業改善のポイント

- 物語全体を把握する活動を位置付ける。
- 語彙指導に関して、1年間継続して取り組めるような活動を設定する。

正答の状況

年 度		令和4年度	令和3年度
平均 正答数	県	9.7問／14問	9.0問／14問
	全国	9.7問／14問	9.0問／14問
平均 正答率	県	69%	64%
	全国	69%	64.6%

今回の調査結果から明らかになった成果と課題

成果1	根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること
成果2	漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと
課題1	場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること
課題2	語句の量を増やすとともに、語感を磨き語彙を豊かにすること

成果が見られた問題の概要

○成果1 設問番号 2 三

【学習指導要領における領域・内容】

〔第1学年〕知識及び技能 (2) 情報の扱い方に関する事項 イ

比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深め、それらを使うこと。

〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 B 書くこと ウ

根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること。

【設問の概要】

農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える。

【平均正答率(%)】				
2 三	本県	全国	差	自校
	51.2	46.5	+4.7	

本問題は、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうか見られる問題であり、そこに「知識及び技能」の内容である、引用の仕方を条件として設定している問題である。

根拠を明確にして書くことは例年苦手としている内容であるため、鹿児島学習定着度調査でも意識して出題している内容である。

○成果2 設問番号 4 一

【学習指導要領における領域・内容】〔第1学年〕知識及び技能 (3)エ(イ)

漢字の行書の基礎的な書き方を理解して、身近な文字を行書で書くこと。(書写)

【設問の概要】

行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する。

【平均正答率(%)】				
4 一	本県	全国	差	自校
	50.7	39.4	+11.3	

書写指導においても、作品を分析、評価するなどの振り返りの時間の充実が求められる。

課題が見られた問題の概要、問題点とその改善点

課題が見られた問題の概要

▲課題1 設問番号 3 三

【学習指導要領における領域・内容】〔第1学年〕思考力、判断力、表現力等 C 読むこと イ 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えること

【設問の概要】

話の展開に沿って「おれ」の行動や心情を並べ替える。

【平均正答率】

3 三	本県	全国	差	自校
	59.1	62.0	-2.9	

問題点とその改善点

場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができているかを問う設問である。物語全体における登場人物の心情の変化を捉える経験が少ないのではないと思われる。

【授業改善例】

<全国学力・学習状況調査の報告書にある授業アイデア例P51からを参考にする。>
～光村図書中2「アイスプラネット」の学習で活用できます。～

- 心情を表す言葉を取り上げてその変化をたどり、心情曲線で表したり、それぞれの描写が表している心情の違いを考えたりする活動を位置付ける。大切なのは切り取った一部分のみで心情を捉えるのではなく、物語全体の心情の変化を捉えさせることである。
- 物語全体の概略をとらえまとめさせたり、人物関係の相関図を作らせたりするなど、物語全体を把握させる活動を位置付ける。家庭学習等で取り組ませ、授業の中で付加、修正する活動も考えられる。

▲課題2 設問番号 3 二

【学習指導要領における領域・内容】〔第1学年〕知識及び技能 (1)ウ 事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

【設問の概要】

「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する。

【平均正答率】

3 二	本県	全国	差	自校
	81.9	84.0	-2.1	

問題点とその改善点

「語彙」の意味理解について問う設問である。語彙指導については、語句を話や文章の中で使うことを通して、社会生活の中で使いこなせる語句を増やし、確実に習得していくことが大事である。よって、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の領域の指導の中で、適宜指導していくことが大事である。

【授業改善例】

- 授業を行う前に、当日生徒に着目させたい「語彙」を一つ決めて授業に臨む。
- 生徒が着目した「語彙」の意味について尋ねたり、その言葉がもつ語感について話し合わせたりする。
- 着目させたいその「語彙」を使って短文作りに取り組ませる。

【学校教育全体で取り組む語彙指導】

- 語彙量を増やすためには読書指導が欠かせない。継続的な読書指導を進め、多くの子が本に親しめるような時間や場所を設定するとともに、新聞等も含め、幅広く図書資料に目を向けさせるような取組を全教科で進める必要がある。
- ノートの巻末に、自分で調べた語彙をまとめさせるようにして、マイ辞典を作らせたり、ICTを活用してマイ辞典を作成させたりすることも可能である。

算 数【小学校第6学年】

授業改善のポイント

- 言葉、図、数、式、表、グラフなどを含む学習課題を読み取ることで、児童自ら問いをもち、問題解決を行うことができるような授業設計を行う。

正答の状況

年 度		令和4年度	令和3年度
種 別		算数	算数
平均 正答数	県	10.1問/16問	11.4問/16問
	全国	10.1問/16問	11.2問/16問
平均 正答率	県	63%	71%
	全国	63.2%	70.2%

今回の調査結果から明らかになった成果と課題

- 成果1** 日常生活の問題を解決するために、一つ分の大きさ、幾つ分、幾つ分かに当たる大きさの関係を捉え、式に表したり、式の意味を説明したりすることができるようにすること。
- 課題1** 日常生活において、数の大きさを見積もる際には、概数にする方法である切り上げ、切り捨て、四捨五入を用いて計算し、どの方法が適切であるかを判断できるようにすること。
- 課題2** 飲み物の量に対する果汁の量の割合が、飲み物の濃さを表していることを理解するとともに、飲み物を分けても飲み物の濃さは変わらないという生活経験を想起できるようにすること。

成果が見られた問題の概要

成果1 設問番号 1 (3) A 数と計算

【設問の概要】

カップケーキ7個分の値段を、 $1470 \div 3$ で求めることができるわけを書く。

【平均正答率(%)】				
1(3)	本県	全国	差	自校
	81.3	76.0	5.3	

一問一答式の計算問題や、与えられた説明を用いて説明を書く問題など、形式的な知識・技能を問う問題については全国より高い通過率であり、繰り返し補充指導等により成果を挙げているといえる。

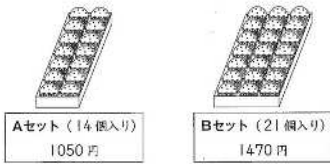
課題が見られた問題の概要

課題1 設問番号 1 (4) A 数と計算

【設問の概要】

85×21 の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ。

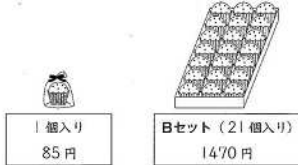
1 カップケーキが、下のようになっています。1箱14個入りで1050円のAセットと、1箱21個入りで1470円のBセットがあります。



Aセット (14個入り) 1050円
Bセット (21個入り) 1470円

(1) ゆうどさんは、Aセットを4箱買うことにしました。
Aセット4箱分の代金を求める式は、 1050×4 です。
 1050×4 を計算しましょう。

(4) カップケーキが1個入り85円でも売られています。
くるみさんは、1個入り85円のカップケーキ21個分の値段と、Bセット1箱分の値段である1470円を比べることにしました。



1個入り 85円
Bセット (21個入り) 1470円

1個入り85円のカップケーキ21個分の値段は、 85×21 で求めることができます。



85×21の答えが1470より必ず大きくなることは、85×21をそのまま計算せずに、85と21をがい数にして計算してもわかります。

85×21 の答えが、1470より必ず大きくなるのがわかるためには、「85」と「21」をどのようにがい数にして計算するとよいですか。
下のアからエまでの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 85を小さくみて80、21を小さくみて20として計算します。
- イ 85を小さくみて80、21を大きくみて30として計算します。
- ウ 85を大きくみて90、21を小さくみて20として計算します。
- エ 85を大きくみて90、21を大きくみて30として計算します。

【平均正答率(%)】				
1(4)	本県	全国	差	自校
	33.3	34.8	-1.5	

自校の正答率と解答種類の割合を記入し、誤答の理由を探りましょう。

問題点とその改善点

- 右枠部分から、49.8%の児童が85と21をそれぞれ一の位の数を四捨五入し、十の位までの概数にして計算すると良いと考え、目的に合った概数にして計算する方法を選ぶことができていないと考えられる。
- 指導に当たっては、日常生活において、数の大きさを見積もる必要があるときは、目的に応じて数を大きくみたり小さくみたりして、概算できるようにすることが重要である。その際、概数にする方法である切り上げ、切り捨て、四捨五入を用いて計算し、どの方法が適切であるかを判断できるようにすることが大切である。

<本県の誤答傾向>

正答	解答類型	類型(%)	自校(%)
◎	アと解答しているもの。	33.3	
	イと解答しているもの。	5.9	
	ウと解答しているもの。	49.8	
	エと解答しているもの。	10.1	
	上記以外の解答	0.3	
	無解答	0.5	

課題が見られた問題の概要

課題2 設問番号 2 (3) C 変化と関係

【設問の概要】

果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ。

2

果汁入りの飲み物について考えます。

(1) オレンジの果汁が25%ふくまれている飲み物があります。飲み物の量をもとにしたときの、果汁の量の割合を分数で表しましょう。

(2) オレンジの果汁が40%ふくまれている飲み物があります。この飲み物1000 mLには、果汁が何mL入っていますか。答えを書きましょう。

(3) リんごの果汁が20%ふくまれている飲み物が500 mLあります。この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250 mLになります。

250 mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250 mLは、500 mLの $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、

上のア)にあてはまる文を、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 2 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 3 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

<本県の誤答傾向>

【平均正答率(%)】				
2(3)	本県	全国	差	自校
	21.3	21.4	-0.1	

自校の正答率と解答タイプの割合を記入し、誤答の理由を探りましょう。

正答	解答類型	類型(%)	自校(%)
	1と解答しているもの。	66.9	
	2と解答しているもの。	10.6	
◎	3と解答しているもの。	21.3	
	上記以外の解答	0.5	
	無解答	0.7	

問題点とその改善点

- 右上枠部分から、66.9%の児童が果汁が20%含まれている飲み物を二人で等しく分けるとき、飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、同様に果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になると誤って捉えていると考えられる。
- 指導に当たっては、日常の具体的な場面に対応させながら、飲み物の量に対する果汁の量の割合が、飲み物の濃さを表していることを理解できるようにすることが重要である。その際、飲み物を分けても、飲み物の濃さは変わらないという生活経験を想起できるようにすることが大切である。

数 学【中学校第3学年】

授業改善のポイント

- 言葉や数、式、図、表、グラフなどを含む学習課題を読み取ることで、生徒自ら問いをもち、問題解決を行うことができるような授業設計を行う。

正答の状況

年 度 種 別	令和4年度		令和3年度	
	数学		数学	
平均 正答数	県	6.6問／14問	県	9.0問／16問
	全国	7.2問／14問	全国	9.1問／16問
平均 正答率	県	47%	県	56%
	全国	51.4%	全国	57.2%

今回の調査結果から明らかになった課題

- 課題1 一次関数の変化の割合の意味を理解すること
- 課題2 問題場面における考察の対象を明確に捉えること
- 課題3 与えられた文章や表、グラフから、必要な情報を適切に読み取ること

課題が見られた問題の概要

課題1 設問番号④

【設問の概要】

変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ。

- 4 下のアからエまでの表は、 y が x の一次関数である関係を表しています。この中から、変化の割合が2であるものを1つ選びなさい。

ア

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-11	-7	-3	1	5	9	13	...

イ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-5	-3	-1	1	3	5	7	...

ウ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-2	-1	0	1	2	3	4	...

エ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-7	-4	-1	2	5	8	11	...

<本県の主な誤答傾向>

正答	解答類型	類型(%)	自校(%)
◎	アと解答しているもの。	32.2	
	イと解答しているもの。	36.1	
	ウと解答しているもの。	17.5	
	エと解答しているもの。	13.6	
	上記以外の解答	0.2	
	無解答	0.4	

【平均正答率(%)】

4	本県	全国	差	自校
	32.2	37.9	-5.7	

問題点とその改善点

- 上太枠部分から、36.1%の生徒が表の隣り合う二つの y の値に着目し、その差が2であることから、その2を変化の割合と捉えるなど、変化の割合について理解が不十分であると考えられる。
- 指導に当たっては、本題材のように表の隣り合う二つの x の値が2である表を取り扱ったり、グラフや身の回りの題材を取り扱う際に変化の割合について触れ、学び直す機会を設けたりすることが重要である。

課題が見られた問題の概要

課題2 設問番号⑥(1)

- 6 康太さんは、2つの偶数の和がどのような場合に4の倍数になるかを調べています。

$$\begin{array}{lll} 2+2=4 & 4+2=6 & 6+2=8 \\ 2+4=6 & 4+4=8 & 6+4=10 \\ 2+6=8 & 4+6=10 & 6+6=12 \end{array}$$

$2+2=4$ 、 $4+4=8$ 、 $6+6=12$ のように、同じ2つの偶数の場合、2つの偶数の和が4の倍数になっていることから、康太さんは次のように予想しました。

$$\begin{array}{l} 4=4 \times 1 \\ 8=4 \times 2 \\ 12=4 \times 3 \\ \text{3つとも4の倍数に} \\ \text{なっているね。} \end{array}$$

予想1

同じ2つの偶数の和は、4の倍数になる。

【設問の概要】

同じ偶数の和である $2n+2n=4n$ について n が9のとき、どのような計算を表しているかを書く。

説明1

n を整数とすると、偶数は $2n$ と表される。
同じ2つの偶数の和は、
 $2n+2n=4n$
 n は整数だから、 $4n$ は4の倍数である。
したがって、同じ2つの偶数の和は、4の倍数になる。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (1) 前ページの説明1では、 n を整数として、同じ2つの偶数の和を $2n+2n=4n$ と表しています。この式は n の値が9のとき、どのような2つの偶数の和を表していますか。「 $8+8=16$ 」、「 $14+14=28$ 」のように書きなさい。

問題点とその改善点

- 11.6%の生徒は、 $n=9$ のとき「 $9+9=18$ 」になると捉えている。また、その他の解答として「 $9n+9n=18n$ 」という誤答も多く、「 $2n+2n=4n$ 」の左辺に $n=9$ を代入しようとしたが $9n+9n$ と記述し、その計算をした生徒がいると考えられる。
- 文字を用いた式 $2n+2n=4n$ を取り上げ、 $n=9$ を代入した式「 $2\times 9+2\times 9=4\times 9$ 」や、「 $18+18=36$ 」と対比させることで、 $2n+2n$ が同じ2つの偶数の和を表していることや、 $4n$ が4の倍数になることを理解できるようにすることが大切である。

課題が見られた問題の概要

課題3 設問番号 8(1)

8 愛理さんは、総合的な学習の時間に環境問題について調べています。調べたところ、世界が目指す持続可能な開発目標(SDGs)として、17の目標の中に「気候変動に具体的な対策を」という目標があることを知りました。

愛理さんの学級では、この目標に対してできることがないかを話し合い、二酸化炭素の削減に取り組むことにしました。取り組みの参考にするために、ほかの学校の取り組みを調べたところ、となり町の中学校のホームページをみつけました。

となり町の中学校のホームページにあった情報

私たちの取り組みの成果

参加した生徒数 86人

取り組み期間 14日間

家庭での二酸化炭素削減量の合計 300kg

(二酸化炭素) = (杉の木約20本が1年間に300kg) = (吸収する二酸化炭素の量)



そこで、愛理さんの学級では生徒30人で、「二酸化炭素300kgの削減」を目標とすることにしました。この学級の目標を達成するために、家庭でできる二酸化炭素削減の取り組みと削減量について調べました。

家庭でできる二酸化炭素削減の取り組み

取り組み	二酸化炭素削減量
冷房をつけている時間を1時間短くする。	25g
シャワーを浴びている時間を1分間短くする。	79g
部屋の電気をつけている時間を1時間短くする。	23g
テレビを見ている時間を1時間短くする。	23g
⋮	⋮

<本県の主な誤答傾向>

正答	解答類型	類型(%)	自校(%)
◎	$18+18=36$ と解答しているもの。	67.0	
◎	上記について、左辺を $2\times 9+2\times 9$ と解答しているもの、又は、右辺を 4×9 と解答しているもの。	0.7	
	$18+18$ 又は $2\times 9+2\times 9$ と解答しているもの。	0.0	
	36 又は 4×9 と解答しているもの。	0.0	
	$9+9=18$ と解答しているもの。	11.6	
	上記以外の解答	14.0	
	無解答	6.6	

【平均正答率(%)】

6(1)	本県	全国	差	自校
	67.0	73.4	-6.4	

【設問の概要】

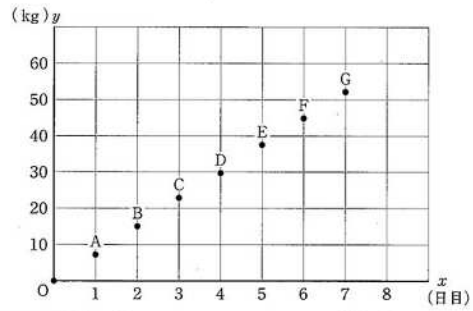
与えられたグラフにおいて、点Eの座標を書く。

そして、家庭でできる二酸化炭素削減の取り組みの中から、生徒それぞれの家庭でできることを選んで取り組むことにしました。その取り組みの成果について、1日ごとの学級30人分の削減量をもとに、その日までの二酸化炭素削減量の合計を記録することにしました。取り組みを始めた日の前日を0日目とし、 x 日目までの二酸化炭素削減量の合計を y kgとして、次のように表にまとめ、表の x と y の値の組を下のグラフに表しました。

二酸化炭素削減量の合計の記録

x (日目)	0	1	2	3	4	5	6	7
y (kg)	0	7.2	15.2	22.8	29.7	37.8	44.9	52.4

* y の値は小数第2位を四捨五入



次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。

- (1) 二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフにおいて、点Eの座標を書きなさい。

問題点とその改善点

- 右太枠部分から、21.8%の生徒は、点Eの座標をグラフ上のおよその位置で判断できているが、二酸化炭素削減量の合計の記録のグラフと表を関連させて読み取ることができなかつたと考えられる。
- 指導に当たっては、表やグラフと具体的な事象を対応させ、グラフ上の点が生きて具体的な事象では何を表しているのかを捉える活動を取り入れ、与えられた表やグラフを関連付けて、必要な情報を読み取ることができるよう指導することが大切である。その際、必要に応じて文章や表、グラフに線を引いたり丸や矢印をかいたりして読み取るよう指導することが重要である。

<本県の主な誤答傾向>

正答	解答類型	類型(%)	自校(%)
◎	(5, 37.8) と解答しているもの。	50.6	
	(37.8, 5) と解答しているもの。	2.5	
	(5, □) と解答しているもの。(□は37.8以外の数、又は無解答)	21.8	
	上記以外の解答	18.7	
	無解答	6.4	

【平均正答率(%)】

8(1)	本県	全国	差	自校
	50.6	54.6	-4.0	

理 科【小学校第6学年】

正答の状況

年 度		令和4年度	平成30年度
種 別		理科	理科
平均 正答数	県	11.4問／17問	9.5問／16問
	全国	10.8問／17問	9.6問／16問
平均 正答率	県	67%	59%
	全国	63.3%	60.3%

今回の調査結果から明らかになった成果と課題

課題1 自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する。

課題2 実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する。

課題が見られた問題の概要、問題点とその改善点

課題が見られた問題の概要

課題1 設問番号 2 (4)

【設問の概要】

凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く。

(4) 砂糖水をこおらせた物は、紅茶に入れるとしずみました。

水をこおらせた物は、紅茶にうくのくに、砂糖水をこおらせた物は、しずんだよ。

水をこおらせた物 砂糖水をこおらせた物

水を入れても、砂糖水をこおらせた物は、しずんだよ。

砂糖水をこおらせた物だから、水にしずんだのかな。砂糖水ではない、ほかの水よう液をこおらせた物でも試してみたいね。

はるとさんは、試してみたいことをもとに、【問題】を見つけました。はるとさんは、どのような【問題】を見つけたと考えられますか。その【問題】を1つ書きましょう。

<本県の誤答傾向>

正答	解答類型	本県(%)	自校(%)
◎	正答の条件を満たして記述しているもの。	34.0	
◎	正答の条件を満たしているが、凍らせる酢溶液の具体的な溶質の名前を挙げて記述しているもの。	4.6	
○	正答の条件を満たしているが、「調べよう」、「やってみよう」、「試してみよう」など、行為を目的とする内容で記述しているもの。	1.2	
	水溶液を凍らせた物を対象として、「どうなるだろう」など、明確ではない変化を問う内容で記述しているもの。	3.7	
	水溶液を凍らせた物を対象として、具体的な問題を示さずに、「調べよう」、「やってみよう」、「試してみよう」行為を目的とする内容で記述しているもの。	4.5	
	水溶液を凍らせた物を対象として、液体に沈む(浮く)現象自体を問うことを示す内容で記述しているもの。	8.7	
	水溶液を凍らせていない物を対象として、液体に沈む(浮く)のかどうかを問うことを示す内容で記述しているもの。	13.3	
	砂糖水を凍らせた物を対象として、液体に沈む(浮く)のかどうかを問うことを示す内容で記述しているもの。	4.8	
	水溶液を凍らせた物を対象として、液体に沈む(浮く)ことを断定、あるいは、推量している内容で記述しているもの。	4.4	
	上記以外の解答	16.2	
	無回答	4.6	

	【平均正答率(%)】			自校
	本県	全国	差	
2(4)	39.8	39.3	0.5	

自校の正答率と解答類型の割合を記入し、誤答の理由を探りましょう。

問題点とその改善点

- 水溶液を凍らせていない物を対象として、液体に沈むのかどうかを問うことを示す内容の誤答が最も多く(13.3%), 問題を見いだす際に、何が対象になっているかを見いだせていないことが考えられる。
- 児童に問題を見いださせる際に、事象提示の工夫をすることで、何が対象になっているのか意識させる。また、他者の意見等も聞きながら、児童に問題意識をもたせ、見通しをもたせる。

課題が見られた問題の概要

課題2 設問番号 3 (4)

【設問の概要】

問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基にして書く。

次に、たかしさんたちは、日光をはね返して調理する動画を見て、現象をやってみることにしました。

たかしさん 「調理に使うならば、黒色がよいと書いてあるよ。黒色があたたまりやすいのかな。」

はなこさん 「ほかの色も試してみたいね。赤色はどうなのかな。」

かつやさん 「色をつけた空きかんに水を入れて、温度をはかろう。」

【問題】 が見つかったね。

【問題】 はね返した日光を水の入ったかんにあてると、何色のかんの水の温度が最も高くなるのか。

たかしさんたちは、次のような実験をしました。

【方法】

測定した温度計

空きかん

①同じ種類、同じ大きさの空きかんに色をぬる。(黒色、赤色、青色、白色)
②それぞれの空きかんに、同じ量の水を入れ、温度計をとりつける。
③はね返した日光をかんにあて、0分、20分後、40分後のかんの水の温度をはかる。

(2) 10分後、かんのようすを見ると、はね返した日光の位置がずれていることに気づきました。

はなこさん 「はね返した日光がかんにあたっていないよ。正しい実験にならないね。」

かつやさん 「鏡に変わっていないのに、はね返した日光の位置がずれるということは、太陽の位置が変化しているんだ。」

実際の【方法】を見直さないといけないね。

たかしさんたちは、実験の【方法】を見直して、手順②を修正しました。下の にあてはまることを書きましょう。

【方法】

②はね返した日光をかんにあて、0分、20分後、40分後のかんの水の温度をはかる。

④なお、太陽の位置の変化に合わせて、はね返した日光がかんにあたるように、 を変える。

実験の【結果】は、下の表のようになりました。

【結果】

かんの色による水の温度の変化				
かんの色	時間	0分	20分後	40分後
黒		24℃	28℃	32℃
赤		24℃	27℃	29℃
青		24℃	27℃	30℃
白		24℃	25℃	26℃

【問題】 に対するまとめは、「はね返した日光を水の入ったかんにあてると、黒色のかんの水の温度が最も高くなる。」といます。

(4) はなこさんが、下線部のようにまとめたわけを上の【結果】を使って書きましょう。

(正答の条件)

- 次の①, ②, ③, ④の全てを記述している。
- ① 「黒色のかん」、「黒以外のかん」など、結果のうち、黒色の缶、または、それ以外の缶の色について言及する趣旨で解答しているもの。
 - ② 「40分後には」、「最後には」など、結果のうち、時間について言及する趣旨で解答しているもの。
 - ③ 「28℃」、「32℃」など、結果のうち、缶の水の温度について言及する趣旨で解答しているもの。
 - ④ 「ほかの色のかんの水の温度よりも高い」、「一番水の温度が高い」など、缶の水の温度を比較することを示す趣旨で解答しているもの。

	【平均正答率(%)】			自校
	本県	全国	差	
3 (4)	34.5	35.1	-0.6	

自校の正答率と解答タイプの割合を記入し、誤答の理由を探りましょう。

<本県の誤答傾向>

正答	解答類型	本県(%)	自校(%)
◎	①, ②, ③, ④全てを記述しているもの。	12.2	
○	①, ②, ④を記述しているもの。	21.1	
○	①, ③, ④を記述しているもの。	1.2	
	①, ②, ③を記述しているもの。	2.0	
	①, ②または、①, ③を記述しているもの。	2.1	
	①, ④を記述しているもの。	19.4	
	②, ③, ④, または、②と③のいずれかと④を記述しているもの。	3.9	
	②, ③, または、②と③のいずれかを記述しているもの。	1.8	
	①, ②, ③, ④の条件に当てはまらず、結果のみを示す内容で記述しているもの。	0.8	
	結果を用いず、原因を示す内容で記述しているもの。	23.7	
	上記以外の解答	6.0	
	無回答	5.6	

問題点とその改善点

- 結果を用いず、原因を示すだけの誤答が最も多い(23.7%), 次に、実験を事実として分析して、解釈し、具体的な数値などを根拠として表現することができていない誤答が多い(19.4%), 考察を行う際に、根拠を示さずに記述する児童が多いと考えられる。
- 結果を考察する場面では、自分の考えをまとめる場を設定し、その上で話し合いができるようにする。その際、「共通点や差異点」「比較する」「関係付ける」など、児童が「理科の見方・考え方」を働かせるよう、発問や助言を工夫する。

理科【中学校第3学年】

正答の状況

年 度		令和4年度	平成30年度
種 別		理科	理科
平均 正答数	県	10.2問/21問	17.5問/27問
	全国	10.4問/21問	17.9問/27問
平均 正答率	県	49%	65%
	全国	49.3%	66.1%

今回の調査結果から明らかになった成果と課題

課題1 観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できているか。

課題2 時間的・空間的な見方を働かせながら、地層の傾きを分析して解釈できているか。

課題が見られた問題の概要、問題点とその改善点

課題が見られた問題の概要

課題1 設問番号 2 (3)

【設問の概要】

上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する。

飛行機雲のようすを考察する場面

<10月1日13時>



飛行機雲がすぐ消える

<10月15日13時>



飛行機雲が長く残る



山本さん

日によって、飛行機雲がすぐ消えたり、長く残ったりします。なぜだろう。



山本さん

飛行機雲は、燃料の燃焼でできた水蒸気が凝結したものです。このことから何が関係していると考えますか。



先生

飛行機雲の残り方は、湿度と関係していると考えます。



中村さん

飛行機雲を撮影した日時の百葉箱の観測データを調べました。

百葉箱の観測データ			
日時	気温(℃)	湿度(%)	飛行機雲の残り方
10月1日13時	21.5	61	すぐ消えた
10月15日13時	20.3	61	長く残った

私は、このデータから、「湿度は関係していない」と考えます。

(3) 中村さんの下線部の考えに対して、どのように判断することが最も適切ですか。下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア 観測データの気温が異なるので、「湿度は関係していない」と言える。
- イ 観測データの湿度が等しいので、「湿度は関係していない」と言える。
- ウ 湿度が異なる他の日を調べないと、「湿度は関係していない」とは言えない。
- エ 飛行機雲の高さの湿度を調べないと、「湿度は関係していない」とは言えない。

<本県の誤答傾向>

正答	解答類型	本県(%)	自校(%)
	アと解答しているもの。	7.6	
	イと解答しているもの。	39.3	
	ウと解答しているもの。	25.5	
◎	エと解答しているもの。	27.4	
	上記以外の解答	0.0	
	無回答	0.3	

【平均正答率(%)】

	本県	全国	差	自校
2(3)	27.4	28.5	-1.1	

自校の正答率と解答タイプの割合を記入し、誤答の理由を探りましょう。

問題点とその改善点

- イ,ウの誤答が64.8%である。校庭にある百葉箱のデータだけで上空の飛行機雲の残り方を考察しており、考察の根拠としてその観測データを用いることが妥当かどうか検討して改善することに課題があると考えられる。
- 結果を考察する場面では、自分の考えをまとめる場を設定し、その上で話し合いができるようにする。その際、考察の根拠としてのデータの妥当性があるかなど、発問や助言を工夫する。

課題が見られた問題の概要

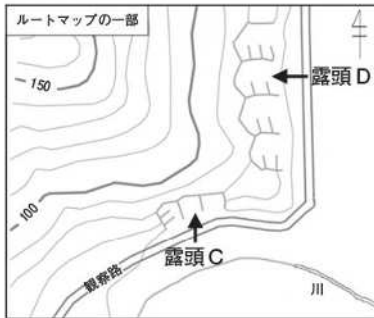
課題2 設問番号 6 (3)

【設問の概要】

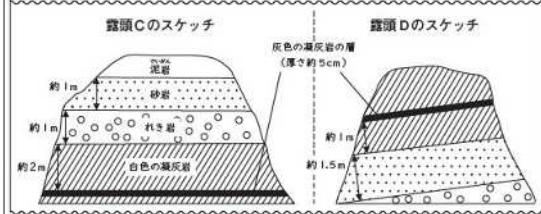
東西方向と南北方向の地層の断面である路頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する。

ルートマップと露頭のスケッチから地層の傾きを考える場面

学 芸 員：この地域には、堆積岩が分布しています。地層の傾きについて考えましょう。



フィールドノートの一部



赤井さん：露頭をルートマップの矢印の向きから観察して、スケッチしました。観察した地層には、特徴的な灰色の凝灰岩の層がありました。

青木さん：露頭Cと露頭Dの位置関係とスケッチから、この地層は W に下がるように傾いていると考えられます。

(3) W にはまる適切なものを、下のAからEまでの中から1つ選びなさい。

A 北から南 I 南から北 U 西から東 E 東から西

<本県の誤答傾向>

正答	解答類型	本県(%)	自校(%)
◎	アと解答しているもの。	30.4	
	イと解答しているもの。	13.1	
	ウ又はエと解答しているもの。	55.9	
	上記以外の解答	0.0	
	無回答	0.5	

【平均正答率(%)】

	本県	全国	差	自校
6(3)	30.4	34.2	-3.8	

自校の正答率と解答タイプの割合を記入し、誤答の理由を探りましょう。

問題点とその改善点

- ウ,エの誤答が 55.9 %と多く、ルートマップと路頭C, Dのスケッチを関連付けられず、地層の広がりについて、時間的・空間的な視点で捉え、複数の観察結果から考察できていないと考えられる。
- 「地球」を柱とする領域でのモデル実験の際に、地層の立体模型等を用いることで、時間的・空間的な視点で捉えられるような教具の工夫を行い、考察できるようにする。

(参考資料) 令和4年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙 結果概要

本県、全国の数値は、自信をもって(「1. している」「1. 当てはまる」など)回答している児童の割合(%)を示してある。

【小学校】

1 全国に比べてよい傾向が見られた質問

順位	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差
1	(5)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか【1時間以下】	31.0	23.9	7.1
2	(29)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	30.1	23.4	6.7
3	(9)	将来の夢や目標を持っていますか	65.3	60.4	4.9
4	(6)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)【1時間以下】	33.2	28.6	4.6
5	(16)	学校に行くのは楽しいと思いますか	54.1	51.7	2.4
5	(53)	算数の勉強は好きですか	38.6	36.2	2.4

2 全国に比べてよい傾向が見られない質問

順位	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差
1	(8)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	38.8	46.3	-7.5
2	(7)	自分には、よいところがあると思いますか	32.4	39.4	-7.0
3	(51)	国語の授業の内容はよく分かりますか	34.6	39.5	-4.9
4	(46)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	25.8	30.5	-4.7
5	(14)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	31.4	35.5	-4.1
5	(21)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)【3時間以上】	7.2	11.3	-4.1

【中学校】

1 全国に比べてよい傾向が見られた質問

順位	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差
1	(6)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)【1時間以下】	28.7	18.8	9.9
2	(5)	普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか【1時間以下】	38.2	28.6	9.6
3	(9)	将来の夢や目標を持っていますか	43.0	39.8	3.2
4	(26)	読書は好きですか	41.0	37.9	3.1
4	(56)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	43.8	40.7	3.1

2 全国に比べてよい傾向が見られない質問

順位	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差
1	(32)	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか【ほぼ毎日】	13.7	21.6	-7.9
2	(41)	5年生までに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか	16.4	24.2	-7.8
2	(8)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	32.1	39.9	-7.8
4	(33)	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか(インターネット検索など)【ほぼ毎日】	4.6	12.3	-7.7
5	(46)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	21.4	29.0	-7.6

(参考資料)(1)児童生徒質問紙【小学校】の結果概要

本県, 全国の数値は, 自信をもって「1.している」「1.当てはまる」など回答している児童の割合(%)を示してある。

「児童生徒質問紙」概要【小学校】(全国との差+3以上, -3以下に網掛け)

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
1	(1)	朝食を毎日食べていますか	85.0	84.9	0.1	
2	(2)	毎日, 同じくらいの時刻に寝ていますか	37.8	40.7	-2.9	
3	(3)	毎日, 同じくらいの時刻に起きていますか	54.1	56.8	-2.7	
4	(4)	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について, 家の人と約束したことを守っていますか	38.5	39.4	-0.9	
5	(5)	普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯式のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか【1時間以下】	31.0	23.9	7.1	
6	(6)	普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)【1時間以下】	33.2	28.6	4.6	
7	(7)	自分には, よいところがあると思いますか	32.4	39.4	-7	
8	(8)	先生は, あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	38.8	46.3	-7.5	
9	(9)	将来の夢や目標を持っていますか	65.3	60.4	4.9	
10	(10)	自分でやると決めたことは, やり遂げるようにしていますか	38.5	38.8	-0.3	
11	(11)	難しいことでも, 失敗を恐れないで挑戦していますか	25.7	27.6	-1.9	
12	(12)	人が困っているときは, 進んで助けていますか	42.9	44.9	-2	
13	(13)	いじめは, どんな理由があってもいけないことだと思いますか	84.0	83.9	0.1	
14	(14)	困りごとや不安がある時に, 先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	31.4	35.5	-4.1	
15	(15)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	74.8	75.1	-0.3	
16	(16)	学校に行くのは楽しいと思いますか	54.1	51.7	2.4	
17	(17)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	30.7	30.4	0.3	
18	(18)	友達と協力するのは楽しいと思いますか	73.3	72.6	0.7	
19	(19)	家で学校からの課題で分からないことがあったとき, どのようにしていますか(複数選択)【先生に聞く】	33.9	35.6	-1.7	
20	(20)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	24.1	27.5	-3.4	
21	(21)	学校の授業時間以外に, 普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間, インターネットを活用して学ぶ時間も含む)【3時間以上】	7.2	11.3	-4.1	
22	(22)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に, 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間, インターネットを活用して学ぶ時間も含む)【4時間以上】	4.0	8.0	-4	
23	(23)	学校の授業時間以外に, 普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 読書をしますか(教科書や参考書, 漫画や雑誌は除く)【2時間以上】	6.9	7.2	-0.3	
24	(24)	あなたの家には, およそどれくらい本がありますか(雑誌, 新聞, 教科書は除く)【500冊以上】	2.5	4.5	-2	
25	(25)	新聞を読んでいますか	3.3	4.8	-1.5	
26	(26)	読書は好きですか	43.7	41.9	1.8	
27	(27)	自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあります	29.2	28.1	1.1	
28	(28)	地域の大人に, 授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり, 一緒に遊んでもらったりすることがあります(習い事の先生は除く)	15.0	15.1	-0.1	
29	(29)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	30.1	23.4	6.7	
30	(30)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	16.5	17.6	-1.1	
31	(31)	放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)【家で勉強や読書をしている】	55.4	52.2	3.2	
32	(32)	5年生までに受けた授業で, PC・タブレットなどのICT機器を, どの程度使用しましたか【ほぼ毎日】	25.7	26.7	-1	
33	(33)	学校で, 授業中に自分で調べる場面で, PC・タブレットなどのICT機器を, どの程度使っていますか(インターネット検索など)【ほぼ毎日】	12.0	14.3	-2.3	
34	(34)	学校で, 学級の友達と意見を交換する場面で, PC・タブレットなどのICT機器を, どの程度使っていますか【ほぼ毎日】	7.2	6.4	0.8	
35	(35)	学校で, 自分の考えをまとめ, 発表する場面で, PC・タブレットなどのICT機器を, どの程度使っていますか【ほぼ毎日】	6.9	6.9	0	
36	(36)	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	62.5	65.5	-3	
37	(37)	普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を, 勉強のために使っていますか【2時間以上】	3.4	4.3	-0.9	
38	(38)	5年生までに受けた授業で, 自分の考えを発表する機会では, 自分の考えがうまく伝わるよう, 資料や文章, 話の組立てなどを工夫して発表していましたか	24.0	27.1	-3.1	

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
39	(39)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	27.8	30.5	-2.7	
40	(40)	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	25.9	27.9	-2	
41	(41)	5年生までに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか	24.4	28.3	-3.9	
42	(42)	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	38.0	36.7	1.3	
43	(43)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	35.8	37.7	-1.9	
44	(44)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	33.3	33.2	0.1	
45	(45)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	33.7	31.7	2	
46	(46)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	25.8	30.5	-4.7	
47	(47)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	29.2	31.0	-1.8	
48	(48)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	44.3	42.5	1.8	
49	(49)	国語の勉強は好きですか	21.1	23.4	-2.3	
50	(50)	国語の勉強は大切だと思いますか	66.5	69.3	-2.8	
51	(51)	国語の授業の内容はよく分かりますか	34.6	39.5	-4.9	
52	(52)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	63.1	65.5	-2.4	
53	(53)	算数の勉強は好きですか	38.6	36.2	2.4	
54	(54)	算数の勉強は大切だと思いますか	75.7	76.6	-0.9	
55	(55)	算数の授業の内容はよく分かりますか	44.8	45.6	-0.8	
56	(56)	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	73.9	74.7	-0.8	
57	(57)	算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	33.2	33.1	0.1	
58	(58)	算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	43.5	44.9	-1.4	
59	(59)	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	43.0	43.8	-0.8	
60	(60)	算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	47.9	48.5	-0.6	
61	(61)	理科の勉強は好きですか	48.2	49.3	-1.1	
62	(62)	理科の勉強は大切だと思いますか	56.0	57.4	-1.4	
63	(63)	理科の授業の内容はよく分かりますか	52.6	54.9	-2.3	
64	(64)	理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	34.7	35.1	-0.4	
65	(65)	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	45.5	45.5	0	
66	(66)	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	12.3	13.1	-0.8	
67	(67)	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	40.3	40.5	-0.2	
68	(68)	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	45.3	47.0	-1.7	
69	(69)	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	31.0	33.3	-2.3	
70	(国1)	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	82.3	78.0	4.3	
71	(国2)	解答時間は十分でしたか(45分)	33.3	29.9	3.4	
72	(算1)	今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	86.0	82.8	3.2	
73	(算2)	解答時間は十分でしたか(45分)	56.0	57.2	-1.2	
74	(理1)	今回の理科の問題では、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	87.9	80.6	7.3	
75	(理2)	解答時間は十分でしたか(45分)	76.2	74.2	2	

(参考資料)(2)児童生徒質問紙【中学校】の結果概要

本県, 全国の数値は, 自信をもって「1.している」「1.当てはまる」など回答している児童の割合(%)を示してある。

「児童生徒質問紙」概要【中学校】(全国との差+3以上, -3以下に網掛け)

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
1	(1)	朝食を毎日食べていますか	82.8	79.9	2.9	
2	(2)	毎日, 同じくらいの時刻に寝ていますか	38.0	37.0	1.0	
3	(3)	毎日, 同じくらいの時刻に起きていますか	58.6	56.8	1.8	
4	(4)	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について, 家の人と約束したことを守っていますか	31.2	32.2	-1.0	
5	(5)	普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, テレビゲーム(コンピュータゲーム, 携帯型のゲーム, 携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか【1時間以下】	38.2	28.6	9.6	
6	(6)	普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか(携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く)【1時間以下】	28.7	18.8	9.9	
7	(7)	自分には, よいところがあると思いますか	29.1	36.0	-6.9	
8	(8)	先生は, あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	32.1	39.9	-7.8	
9	(9)	将来の夢や目標を持っていますか	43.0	39.8	3.2	
10	(10)	自分でやると決めたことは, やり遂げるようにしていますか	37.4	36.8	0.6	
11	(11)	難しいことでも, 失敗を恐れないで挑戦していますか	19.2	21.4	-2.2	
12	(12)	人が困っているときは, 進んで助けていますか	39.4	40.6	-1.2	
13	(13)	いじめは, どんな理由があってもいけないことだと思いますか	84.7	82.6	2.1	
14	(14)	困りごとや不安がある時に, 先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	28.3	32.5	-4.2	
15	(15)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	73.6	73.5	0.1	
16	(16)	学校に行くのは楽しいと思いますか	48.3	45.8	2.5	
17	(17)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	29.0	31.4	-2.4	
18	(18)	友達と協力するのは楽しいと思いますか	67.4	66.2	1.2	
19	(19)	家で学校からの課題で分からないことがあったとき, どのようにしていますか(複数選択)【先生に聞く】	25.7	31.4	-5.7	
20	(20)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	14.4	15.4	-1.0	
21	(21)	学校の授業時間以外に, 普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間, インターネットを活用して学ぶ時間も含む)【3時間以上】	7.3	9.9	-2.6	
22	(22)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に, 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間, インターネットを活用して学ぶ時間も含む)【4時間以上】	5.2	7.3	-2.1	
23	(23)	学校の授業時間以外に, 普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 読書をしますか(教科書や参考書, 漫画や雑誌は除く)【2時間以上】	4.9	4.6	0.3	
24	(24)	あなたの家には, およそどれくらい本がありますか(雑誌, 新聞, 教科書は除く)【500冊以上】	2.7	4.1	-1.4	
25	(25)	新聞を読んでいますか	2.5	3.0	-0.5	
26	(26)	読書は好きですか	41.0	37.9	3.1	
27	(27)	自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがあります	22.1	21.3	0.8	
28	(28)	地域の大人に, 授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり, 一緒に遊んでもらったりすることがあります(習い事の先生は除く)	8.6	9.9	-1.3	
29	(29)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	16.9	14.3	2.6	
30	(30)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	9.0	11.1	-2.1	
31	(31)	放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)【家で勉強や読書をしている】	66.8	73.9	-7.1	
32	(32)	5年生までに受けた授業で, PC・タブレットなどのICT機器を, どの程度使用しましたか【ほぼ毎日】	13.7	21.6	-7.9	
33	(33)	学校で, 授業中に自分で調べる場面で, PC・タブレットなどのICT機器を, どの程度使っていますか(インターネット検索など)【ほぼ毎日】	4.6	12.3	-7.7	
34	(34)	学校で, 学級の友達と意見を交換する場面で, PC・タブレットなどのICT機器を, どの程度使っていますか【ほぼ毎日】	2.3	5.0	-2.7	
35	(35)	学校で, 自分の考えをまとめ, 発表する場面で, PC・タブレットなどのICT機器を, どの程度使っていますか【ほぼ毎日】	2.1	4.7	-2.6	
36	(36)	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	52.9	56.7	-3.8	
37	(37)	普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を, 勉強のために使っていますか【2時間以上】	1.3	2.5	-1.2	
38	(38)	5年生までに受けた授業で, 自分の考えを発表する機会では, 自分の考えがうまく伝わるよう, 資料や文章, 話の組立てなどを工夫して発表していましたか	15.6	22.5	-6.9	

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
39	(39)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	27.4	31.2	-3.8	
40	(40)	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	17.2	22.0	-4.8	
41	(41)	5年生までに受けた授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行っていましたか	16.4	24.2	-7.8	
42	(42)	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	18.8	22.8	-4.0	
43	(43)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	32.0	34.1	-2.1	
44	(44)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	24.2	25.6	-1.4	
45	(45)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	25.1	28.4	-3.3	
46	(46)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	21.4	29.0	-7.6	
47	(47)	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	22.0	25.3	-3.3	
48	(48)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	43.9	43.0	0.9	
49	(49)	国語の勉強は好きですか	21.4	24.2	-2.8	
50	(50)	国語の勉強は大切だと思いますか	61.8	63.1	-1.3	
51	(51)	国語の授業の内容はよく分かりますか	28.3	31.9	-3.6	
52	(52)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	56.5	55.6	0.9	
53	(53)	数学の勉強は好きですか	30.7	29.9	0.8	
54	(54)	数学の勉強は大切だと思いますか	54.1	52.1	2.0	
55	(55)	数学の授業の内容はよく分かりますか	35.9	36.1	-0.2	
56	(56)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	43.8	40.7	3.1	
57	(57)	数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	15.1	16.4	-1.3	
58	(58)	数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	34.2	35.2	-1.0	
59	(59)	数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	30.6	33.9	-3.3	
60	(60)	数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか	39.1	39.2	-0.1	
61	(61)	理科の勉強は好きですか	30.1	32.2	-2.1	
62	(62)	理科の勉強は大切だと思いますか	34.7	36.9	-2.2	
63	(63)	理科の授業の内容はよく分かりますか	27.3	30.9	-3.6	
64	(64)	理科の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか	18.2	20.2	-2.0	
65	(65)	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	23.0	24.8	-1.8	
66	(66)	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	6.9	8.0	-1.1	
67	(67)	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	22.3	22.3	0.0	
68	(68)	理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか	33.7	35.8	-2.1	
69	(69)	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	21.4	25.3	-3.9	
70	(国1)	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	79.2	77.3	1.9	
71	(国2)	解答時間は十分でしたか(50分)	49.6	45.4	4.2	
72	(算1)	今回の数学の問題では、言葉や数、式を使って、説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	54.7	53.4	1.3	
73	(算2)	解答時間は十分でしたか(50分)	33.5	38.6	-5.1	
74	(理1)	今回の理科の問題では、解答を文章などで書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	76.6	74.0	2.6	
75	(理2)	解答時間は十分でしたか(50分)	65.9	67.2	-1.3	

(参考資料) (3)学校質問紙【小学校】の結果概要

本県, 全国の数値は, 自信をもって(「1. そう思う」「1. よくしている」など) 回答している学校の割合(%) を示してある。

「学校質問紙」概要【小学校】(全国との差+5以上, -5以下に網掛け)

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
1	(7)	調査対象学年の児童は, 授業中の私語が少なく, 落ち着いていると思いますか	49.5	42.0	7.5	
2	(8)	調査対象学年の児童に対して, 前年度までに, 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	37.7	20.4	17.3	
3	(9)	調査対象学年の児童に対して, 前年度までに, 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	51.8	48.5	3.3	
4	(10)	調査対象学年の児童に対して, 前年度までに, 学校生活の中で, 児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか	63.5	59.0	4.5	
5	(11)	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して, 児童が相談したい時に相談できる体制となっていますか	37.5	50.5	-13.0	
6	(12)	前年度に, 教員が授業で問題を抱えている場合, 率先してそのことについて話し合うことを行いましたか	50.5	35.1	15.4	
7	(13)	前年度に, 教員が学級の問題を抱えている場合, ともに問題解決に当たることを行いましたか	63.7	51.3	12.4	
8	(14)	ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)に取り組んでいますか	43.1	39.7	3.4	
9	(15-1)	ICTを活用した校務の効率化を通じて, 児童の欠席・遅刻に関する事務は軽減しましたか	24.9	21.6	3.3	
10	(15-2)	ICTを活用した校務の効率化を通じて, 家庭への調査等に関する事務(個人面談等の日程調整や学校評価アンケートなど)は軽減しましたか	15.7	19.0	-3.3	
11	(15-3)	ICTを活用した校務の効率化を通じて, 学校からのお知らせ(学校通信等)は軽減しましたか	10.9	11.0	-0.1	
12	(15-4)	ICTを活用した校務の効率化を通じて, 教職員等会議に関する事務は軽減しましたか	13.8	18.2	-4.4	
13	(15-5)	ICTを活用した校務の効率化を通じて, 教職員の書類作成等その他の事務は軽減しましたか	16.9	12.2	4.7	
14	(16)	指導計画の作成に当たっては, 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え, 学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で, その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	43.5	27.9	15.6	
15	(17)	児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき, 教育課程を編成し, 実施し, 評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	45.8	29.3	16.5	
16	(18)	指導計画の作成に当たっては, 教育内容と, 教育活動に必要な人的・物的資源等を, 地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	40.8	32.0	8.8	
17	(19)	授業研究や事例研究等, 実践的な研修を行っていますか	61.6	54.4	7.2	
18	(20)	児童自ら学級やグループで課題を設定し, その解決に向けて話し合い, まとめ, 表現などの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	38.1	26.5	11.6	
19	(21)	個々の教員が自らの専門性を高めるため, 校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)	26.0	18.5	7.5	
20	(22)	校内研修の計画立案, その他の研修に関する業務を行う校務分掌を, 誰が担っていますか(管理職を除く)【主として校内研修に関する業務を行う校務分掌を設けており, 当該教員が担っている】	98.6	89.1	9.5	
21	(23)	調査対象学年の児童は, 授業では, 課題の解決に向けて, 自分で考え, 自分から取り組むことができていると思いますか	26.4	19.3	7.1	
22	(24)	調査対象学年の児童は, 授業において, 自らの考えがうまく伝わるよう, 資料や文章, 話の組立てなどを工夫して, 発言や発表を行うことができていると思いますか	19.0	11.8	7.2	
23	(25)	調査対象学年の児童は, 学級やグループでの話し合いなどの活動で, 自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	26.2	17.3	8.9	
24	(26)	調査対象学年の児童は, 学級やグループでの話し合いなどの活動で, 自分の考えを深めたり, 広げたりすることができると思いますか	18.4	15.1	3.3	
25	(27)	調査対象学年の児童は, 学級やグループでの話し合いなどの活動で, 相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか	36.9	31.4	5.5	
26	(28)	調査対象学年の児童に対して, 前年度までに, 授業において, 児童の様々な考えを引き出したり, 思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	42.5	34.5	8.0	
27	(29)	調査対象学年の児童に対して, 前年度までに, 授業において, 児童自ら学級やグループで課題を設定し, その解決に向けて話し合い, まとめ, 表現などの学習活動を取り入れましたか	40.2	31.6	8.6	
28	(30)	調査対象学年の児童に対して, 前年度までに, 習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	34.6	21.2	13.4	
29	(31)	調査対象学年の児童に対して, 前年度までに, 各教科等で身に付けたことを, 様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	25.2	16.6	8.6	
30	(32)	調査対象学年の児童に対して, 前年度までに, 教科等の指導に当たって, 地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか	24.3	21.7	2.6	
31	(33)	調査対象学年の児童に対して, 総合的な学習の時間において, 課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	36.3	32.4	3.9	
32	(34)	調査対象学年の児童に対して, 学級生活をよりよくするために, 学級会で話し合い, 互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか	36.3	37.1	-0.8	
33	(35)	調査対象学年の児童に対して, 学級活動の授業を通して, 今, 努力すべきことを学級での話し合いを生かして, 一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っていますか	33.4	31.4	2.0	
34	(36)	調査対象学年の児童に対して, 特別の教科 道徳において, 児童自らが自分自身の問題として捉え, 考え, 話し合うような指導の工夫をしていますか	44.3	37.6	6.7	
35	(37)	調査対象学年の児童に対して, 前年度までに, 児童のよい点や改善点等を積極的に評価し, 学習したことの意義や価値を実感できるようにしましたか	48.5	39.0	9.5	
36	(38)	調査対象学年の児童に対して, 前年度までに, 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう, 評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や, 学年会や教科等部会等の校内組織の活用等, 組織的かつ計画的な取組をしましたか	24.9	22.0	2.9	

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
37	(39)	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行いましたか	39.6	29.0	10.6	
38	(40)	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行いましたか	43.3	34.4	8.9	
39	(41)	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり、書き表し方を工夫したりする授業を行いましたか	38.6	29.2	9.4	
40	(42)	調査対象学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、感想や考えをもちたり自分の考えを広げたりする授業を行いましたか	41.4	34.4	7.0	
41	(43)	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度に、算数の授業における少人数による指導を行いましたか	24.9	22.2	2.7	
42	(44)	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度に、算数の授業における習熟度に応じた指導を行いましたか	16.7	15.9	0.8	
43	(45)	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度に、算数の授業におけるチーム・ティーチングによる指導を行いましたか	7.2	16.0	-8.8	
44	(46)	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	27.2	17.9	9.3	
45	(47)	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか	39.0	29.7	9.3	
46	(48)	調査対象学年の児童に対する算数の指導として、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していましたか	47.6	40.8	6.8	
47	(49)	調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度に、教科担任制を実施していましたか	8.9	15.4	-6.5	
48	(50)	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか	40.2	28.1	12.1	
49	(51)	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	42.5	30.9	11.6	
50	(52)	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた予想や仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか	48.5	36.8	11.7	
51	(53)	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか	52.0	42.7	9.3	
52	(54)	調査対象学年の児童に対する理科の指導として、前年度に、児童が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	62.3	44.8	17.5	
53	(55)	調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度に、教科担任制を実施していましたか	55.5	53.6	1.9	
54	(56)	前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	69.5	67.2	2.3	
55	(57)	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	65.2	55.8	9.4	
56	(58)	コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ(教員は除く)がいるなど技術的にサポートできる体制がありますか	30.3	33.7	-3.4	
57	(59)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか【ほぼ毎日】	64.5	58.2	6.3	
58	(60)	調査対象学年の児童が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか【ほぼ毎日】	28.7	21.2	7.5	
59	(61)	調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか【ほぼ毎日】	27.0	13.7	13.3	
60	(62)	教職員と調査対象学年の児童がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか【ほぼ毎日】	30.9	22.6	8.3	
61	(63)	調査対象学年の児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか【ほぼ毎日】	21.0	11.3	9.7	
62	(64)	前年度に、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、児童が学校外の施設(他の学校や社会教育施設、民間企業等)にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか【週1回以上】	2.3	0.9	1.4	
63	(65)	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか	10.3	18.2	-7.9	
64	(66)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか【毎日持ち帰って、毎日利用させている】	2.7	14.2	-11.5	
65	(67-1)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、家庭におけるオンラインを活用した学習にどの程度活用していますか【ほぼ毎日】	1.4	6.1	-4.7	
66	(67-2)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童のスタディ・ログを活用した学習状況等の確認にどの程度活用していますか【ほぼ毎日】	6.4	4.6	1.8	
67	(67-3)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、児童の特性・学習進度等に応じた指導にどの程度活用していますか【ほぼ毎日】	11.1	7.5	3.6	
68	(67-4)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか【ほぼ毎日】	4.7	13.5	-8.8	
69	(67-5)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか【ほぼ毎日】	17.9	16.4	1.5	
70	(68)	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫等)を行いましたか	49.1	41.7	7.4	
71	(69)	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	25.8	14.9	10.9	
72	(70)	前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか	25.4	14.9	10.5	

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
73	(71)	令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	18.4	11.9	6.5	
74	(72)	職場見学を行っていますか【行っている】	34.2	29.9	4.3	
75	(73)	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	28.7	19.8	8.9	
76	(74)	保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか	63.3	51.5	11.8	
77	(75)	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、(74)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	39.8	27.7	12.1	
78	(76)	(74)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか	53.6	41.6	12.0	
79	(77)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか	58.6	48.7	9.9	
80	(78)	調査対象学年の児童の保護者に対して、前年度までに、児童の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか	57.3	37.4	19.9	
81	(79)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか	48.5	30.8	17.7	
82	(80)	令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	49.5	29.9	19.6	
83	(81)	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	48.5	29.7	18.8	
84	(82)	令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)	38.6	19.7	18.9	

(参考資料) (4)学校質問紙【中学校】の結果概要

本県、全国の数値は、自信をもって(「1. そう思う」「1. よくしている」など)回答している学校の割合(%)を示してある。

「学校質問紙」概要【中学校】(全国との差+5以上、-5以下に網掛け)

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
1	(7)	調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	60.8	65.1	-4.3	
2	(8)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	57.4	50.9	6.5	
3	(9)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	39.2	43.5	-4.3	
4	(10)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行いましたか	56.0	55.2	0.8	
5	(11)	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談に関して、生徒が相談したい時に相談できる体制となっていますか	46.4	64.7	-18.3	
6	(12)	前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか	31.1	23.2	7.9	
7	(13)	前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか	50.2	36.5	13.7	
8	(14)	ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)に取り組んでいますか	40.2	37.8	2.4	
9	(15-1)	ICTを活用した校務の効率化を通じて、生徒の出欠・遅刻に関する事務は軽減しましたか	27.3	17.3	10.0	
10	(15-2)	ICTを活用した校務の効率化を通じて、家庭への調査等に関する事務(個人面談等の日程調整や学校評価アンケートなど)は軽減しましたか	15.3	18.1	-2.8	
11	(15-3)	ICTを活用した校務の効率化を通じて、学校からのお知らせ(学校通信等)は軽減しましたか	12.9	12.1	0.8	
12	(15-4)	ICTを活用した校務の効率化を通じて、教職員等会議に関する事務は軽減しましたか	20.1	19.3	0.8	
13	(15-5)	ICTを活用した校務の効率化を通じて、教職員の書類作成等その他の事務は軽減しましたか	13.9	11.7	2.2	
14	(16)	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	31.6	25.9	5.7	
15	(17)	生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	32.5	28.8	3.7	
16	(18)	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	24.9	22.9	2.0	
17	(19)	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	44.5	40.0	4.5	
18	(20)	生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	24.4	23.1	1.3	
19	(21)	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)	17.2	16.6	0.6	
20	(22)	校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を、誰が担っていますか(管理職を除く)【主として校内研修に関する業務を行う校務分掌を設けており、当該教員が担っている】	99.0	88.0	11.0	
21	(23)	調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	17.7	19.2	-1.5	
22	(24)	調査対象学年の生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	13.9	14.8	-0.9	
23	(25)	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	16.7	20.6	-3.9	
24	(26)	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	14.4	20.3	-5.9	
25	(27)	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか	37.3	42.3	-5.0	
26	(28)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか	26.8	31.4	-4.6	
27	(29)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	26.8	27.8	-1.0	
28	(30)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	23.9	20.7	3.2	
29	(31)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	14.8	13.4	1.4	
30	(32)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか	17.2	17.7	-0.5	
31	(33)	調査対象学年の生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	33.0	35.4	-2.4	
32	(34)	調査対象学年の生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか	32.5	35.6	-3.1	
33	(35)	調査対象学年の生徒に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行っていますか	23.9	30.6	-6.7	
34	(36)	調査対象学年の生徒に対して、特別の教科 道徳において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか	40.7	46.1	-5.4	
35	(37)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒のよい点や改善点等を積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにしましたか	32.5	35.8	-3.3	
36	(38)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教員間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用等、組織的かつ計画的な取組をしましたか	28.7	34.4	-5.7	

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
37	(39)	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行いましたか	35.9	41.5	-5.6	
38	(40)	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行いましたか	38.8	37.7	1.1	
39	(41)	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業を行いましたか	42.6	44.7	-2.1	
40	(42)	調査対象学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業を行いましたか	31.1	41.6	-10.5	
41	(43)	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度に、数学の授業における少人数による指導を行いましたか	32.5	21.8	10.7	
42	(44)	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度に、数学の授業における習熟度に応じた指導を行いましたか	25.4	16.2	9.2	
43	(45)	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度に、数学の授業におけるチーム・ティーチングによる指導を行いましたか	15.3	19.4	-4.1	
44	(46)	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	17.2	17.5	-0.3	
45	(47)	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか	21.1	17.8	3.3	
46	(48)	調査対象学年の生徒に対する数学の指導として、前年度までに、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していましたか	35.9	42.7	-6.8	
47	(49)	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか	27.3	30.6	-3.3	
48	(50)	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	37.8	42.1	-4.3	
49	(51)	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、自ら考えた仮説をもとに、観察、実験の計画を立てることができるような指導を行いましたか	27.3	24.4	2.9	
50	(52)	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行いましたか	37.3	42.9	-5.6	
51	(53)	調査対象学年の生徒に対する理科の指導として、前年度に、生徒が観察や実験をする授業を1クラス当たりどの程度行いましたか【週1回以上】	56.5	46.5	10.0	
52	(54)	前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか【ほぼ毎日】	62.2	68.4	-6.2	
53	(55)	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	45.9	50.3	-4.4	
54	(56)	コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校に十分な知識をもった専門スタッフ(教員は除く)がいるなど技術的にサポートできる体制がありますか	26.3	35.9	-9.6	
55	(57)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか【ほぼ毎日】	47.8	55.5	-7.7	
56	(58)	調査対象学年の生徒が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか【ほぼ毎日】	23.4	22.6	0.8	
57	(59)	調査対象学年の生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか【ほぼ毎日】	18.2	14.6	3.6	
58	(60)	教職員と調査対象学年の生徒がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか【ほぼ毎日】	24.9	21.9	3.0	
59	(61)	調査対象学年の生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか【ほぼ毎日】	13.9	10.2	3.7	
60	(62)	前年度に、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、生徒が学校外の施設(他の学校や社会教育施設、民間企業等)にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか【週1回以上】	3.3	0.7	2.6	
61	(63)	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか	12.4	17.9	-5.5	
62	(64)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか【毎日持ち帰って、毎日利用させている】	2.9	17.0	-14.1	
63	(65-1)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、家庭におけるオンラインを活用した学習にどの程度活用していますか【ほぼ毎日】	2.9	8.1	-5.2	
64	(65-2)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、生徒のスタディ・ログを活用した学習状況等の確認にどの程度活用していますか【ほぼ毎日】	3.3	3.8	-0.5	
65	(65-3)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、生徒の特性・学習進度等に応じた指導にどの程度活用していますか【ほぼ毎日】	8.1	6.6	1.5	
66	(65-4)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校生徒に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか【ほぼ毎日】	3.3	15.4	-12.1	
67	(65-5)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、特別な支援を要する生徒に対する学習活動等の支援にどの程度活用していますか【ほぼ毎日】	10.5	15.7	-5.2	
68	(66)	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫等)を行いましたか	41.6	43.0	-1.4	
69	(67)	前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	39.7	22.2	17.5	
70	(68)	前年度までに、近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか	40.2	22.5	17.7	
71	(69)	令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか	29.7	15.1	14.6	
72	(70)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか	61.7	71.4	-9.7	

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
73	(71)	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	24.4	18.6	5.8	
74	(72)	保護者や地域の方が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか	32.5	24.3	8.2	
75	(73)	地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、(72)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	21.1	16.8	4.3	
76	(74)	(72)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか	34.9	29.8	5.1	
77	(75)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか	44.5	38.2	6.3	
78	(76)	調査対象学年の生徒の保護者に対して、前年度までに、生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか	41.1	26.2	14.9	
79	(77)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしましたか	34.9	25.3	9.6	
80	(78)	令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	35.4	23.6	11.8	
81	(79)	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	38.8	23.6	15.2	
82	(80)	令和3年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)	36.4	19.9	16.5	

(参考資料)(5)学校質問紙【小学校】の結果概要(新型コロナウイルス感染症の影響)

本県の数値は、各質問事項のうち一番傾向の大きい選択肢の割合(%)を示してある。

「学校質問紙」概要【小学校】

番号	質問番号	質問事項	本県で一番傾向の大きい選択肢	県平均
1	(I_1)	令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による、調査対象学年の児童に対する、夏季等の長期休業期間の延長または臨時休業の日数(短縮授業・分散登校・学級単位の休業は含まない)	※1.10日未満	99.4
2	(I_2)	令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による、調査対象学年の児童に対する、短縮授業・分散登校の日数(学級単位の実施は含まない)	※1.10日未満	86.0
3	(II_1)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、教科書による学習(デジタル教科書を含む)を行っていましたか	※5.学校として統一的に把握していない	64.1
4	(II_2)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、学校が作成したプリントなどによる学習(電子メールや学校のHPなどを活用して配信する場合を含む)を行っていましたか	※5.学校として統一的に把握していない	64.1
5	(II_3)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、教科書会社その他民間が作成したプリントなどによる学習(電子メールや学校のHPなどを活用して配信する場合を含む)を行っていましたか	※5.学校として統一的に把握していない	64.1
6	(II_4)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した「問題集」「復習ノート」などの教材を活用した学習(教育委員会のHPで配信されている場合を含む)を行っていましたか	※5.学校として統一的に把握していない	64.1
7	(II_5)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、児童の自由研究や自主学習ノートなどによる学習を行っていましたか	※5.学校として統一的に把握していない	64.1
8	(II_6)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、テレビ放送を活用した学習を行っていましたか	※5.学校として統一的に把握していない	64.1
9	(II_7)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、学校が作成した学習動画等を活用した学習を行っていましたか	※5.学校として統一的に把握していない	64.1
10	(II_8)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習を行っていましたか	※5.学校として統一的に把握していない	64.1
11	(II_9)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、公的機関や民間の音声・動画コンテンツなどを活用した学習((II_7)及び(II_8)を除く)を行っていましたか	※5.学校として統一的に把握していない	64.1
12	(II_10)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、同時双方向型オンライン指導を通じた学習を行っていましたか	※5.学校として統一的に把握していない	64.1
13	(II_11)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、同時双方向型オンラインによる学級活動(ホームルームなど)を行っていましたか	※5.学校として統一的に把握していない	64.1
14	(II_12)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、ファイル共有機能等を活用した児童による共同編集を行っていましたか	※5.学校として統一的に把握していない	64.1
15	(II_13)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、上記以外の民間のデジタル教材を活用した学習を行っていましたか	※5.学校として統一的に把握していない	64.1
16	(III_1)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、運動会・競技会・球技会をどのように実施しましたか	※2 新型コロナウイルス感染症の影響前とは内容や方法を変更した	98.4
17	(III_2)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、音楽会・合唱コンクールをどのように実施しましたか	※4 当該学年では、新型コロナウイルス感染症の影響前から実施していない	51.5
18	(III_3)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、学芸会・文化祭をどのように実施しましたか	※2 新型コロナウイルス感染症の影響前とは内容や方法を変更した	57.3
19	(III_4)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、遠足をどのように実施しましたか	※2 新型コロナウイルス感染症の影響前とは内容や方法を変更した	77.9
20	(III_5)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、芸術鑑賞会をどのように実施しましたか	※2 新型コロナウイルス感染症の影響前とは内容や方法を変更した	53.8
21	(III_6)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、職場見学をどのように実施しましたか	※4 当該学年では、新型コロナウイルス感染症の影響前から実施していない	71.1
22	(III_7)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、集団宿泊活動(修学旅行も含む)をどのように実施しましたか	※2 新型コロナウイルス感染症の影響前とは内容や方法を変更した	83.9
23	(III_8)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、授業参観・学校公開をどのように実施しましたか	※2 新型コロナウイルス感染症の影響前とは内容や方法を変更した	90.7

(参考資料)(6)学校質問紙【中学校】の結果概要(新型コロナウイルス感染症の影響)

本県の数値は、各質問事項のうち一番傾向の大きい選択肢の割合(%)を示してある。

「学校質問紙」概要【中学校】

番号	質問番号	質問事項	本県で一番傾向の大きい選択肢	県平均
1	(I_1)	令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による、調査対象学年の生徒に対する、夏季等の長期休業期間の延長または臨時休業の日数(短縮授業・分散登校・学級単位の休業は含まない)	※1. 10日未満	100.0
2	(I_2)	令和3年度の新型コロナウイルス感染症の影響による、調査対象学年の生徒に対する、短縮授業・分散登校の日数(学級単位の実施は含まない)	※1. 10日未満	80.9
3	(II_1)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、教科書による学習(デジタル教科書を含む)を行っていましたか	※5. 学校として統一的に把握していない	60.3
4	(II_2)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、学校が作成したプリントなどによる学習(電子メールや学校のHPなどを活用して配信する場合を含む)を行っていましたか	※5. 学校として統一的に把握していない	60.3
5	(II_3)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、教科書会社その他民間が作成したプリントなどによる学習(電子メールや学校のHPなどを活用して配信する場合を含む)を行っていましたか	※5. 学校として統一的に把握していない	60.3
6	(II_4)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した「問題集」「復習ノート」などの教材を活用した学習(教育委員会のHPで配信されている場合を含む)を行っていましたか	※5. 学校として統一的に把握していない	60.3
7	(II_5)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、生徒の自由研究や自主学習ノートなどによる学習を行っていましたか	※5. 学校として統一的に把握していない	60.3
8	(II_6)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、テレビ放送を活用した学習を行っていましたか	※5. 学校として統一的に把握していない	60.3
9	(II_7)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、学校が作成した学習動画等を活用した学習を行っていましたか	※5. 学校として統一的に把握していない	60.3
10	(II_8)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、都道府県や市町村教育委員会が作成した学習動画等を活用した学習を行っていましたか	※5. 学校として統一的に把握していない	60.3
11	(II_9)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、公的機関や民間の音声・動画コンテンツなどを活用した学習((II_7)及び(II_8)を除く)を行っていましたか	※5. 学校として統一的に把握していない	60.3
12	(II_10)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、同時双方向型オンライン指導を通じた学習を行っていましたか	※5. 学校として統一的に把握していない	60.3
13	(II_11)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、同時双方向型オンラインによる学級活動(ホームルームなど)を行っていましたか	※5. 学校として統一的に把握していない	60.3
14	(II_12)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、ファイル共有機能等を活用した生徒による共同編集を行っていましたか	※5. 学校として統一的に把握していない	60.3
15	(II_13)	Iでお答えいただいた期間中(短縮授業・分散登校の期間を含む)、家庭での学習として、上記以外の民間のデジタル教材を活用した学習を行っていましたか	※5. 学校として統一的に把握していない	60.3
16	(III_1)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、体育祭・競技会・球技会をどのように実施しましたか	※2 新型コロナウイルス感染症の影響前とは内容や方法を変更した	98.1
17	(III_2)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、音楽会・合唱コンクールをどのように実施しましたか	※2 新型コロナウイルス感染症の影響前とは内容や方法を変更した	55.0
18	(III_3)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、学芸会・文化祭をどのように実施しましたか	※2 新型コロナウイルス感染症の影響前とは内容や方法を変更した	91.4
19	(III_4)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、遠足をどのように実施しましたか	※4 当該学年では、新型コロナウイルス感染症の影響前から実施していない	54.1
20	(III_5)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、芸術鑑賞会をどのように実施しましたか	※2 新型コロナウイルス感染症の影響前とは内容や方法を変更した	40.7
21	(III_6)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、職業体験活動をどのように実施しましたか	※2 新型コロナウイルス感染症の影響前とは内容や方法を変更した	37.8
22	(III_7)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、集団宿泊活動(修学旅行も含む)をどのように実施しましたか	※2 新型コロナウイルス感染症の影響前とは内容や方法を変更した	77.5
23	(III_8)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、授業参観・学校公開をどのように実施しましたか	※2 新型コロナウイルス感染症の影響前とは内容や方法を変更した	83.3

<引用・参考文献>

- 文部科学省 「小学校学習指導要領(平成29年告示)」 2017年
- 文部科学省 「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説」 2017年
- 文部科学省 「中学校学習指導要領(平成29年告示)」 2017年
- 文部科学省 「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説」 2017年
- 文部科学省 「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」 URL:https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/siryu/mext_00001.html 2021年 2023年1月18日確認
- 文部科学省 教育再生実行会議第十次提言「自己肯定感を高め、自らの手で未来を切り拓く子供を育てる教育の実現に向けた、学校、家庭、地域の教育力の向上」 URL:https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/gijiroku/1387211.htm 2017年 2023年1月18日確認
- 文部科学省国立教育政策研究所 「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」 2019年 教育課程研究センター
- 梶田叡一 「教育における評価の理論Ⅰ 学力観・評価観の転換」 1994年 金子書房
- 奈須正裕 「個別最適な学びと協働的な学び」 2021年 東洋館出版社 pp.102-103
- 小塩真司 「非認知能力」 2021年 北大路書房
- 中室牧子 「『学力』の経済学」 2015年 ディスカヴァー・トゥエンティワン pp.93
- 千々布敏弥 「若手教師がぐんぐん育つ学力上位県のひみつ」 2017年 教育開発研究所
- 佐藤学 「内外教育第7042号」 2022年 時事通信社